

【支援者向け】

「むらの減築」ワークショップ運営マニュアル

令和5年3月 Ver.3.0

京都府 農林水産部 農村振興課



目次

1	これからの集落機能の維持に向けて — マニュアルのねらい —	1
(1)	作成背景	1
1)	京都府による農村地域の支援	
2)	求められる集落・住民自治のあり方	
3)	「むらの減築」における支援者のあり方	
(2)	マニュアルのねらい	7
(3)	マニュアルの読み方・使い方	7
2	「むらの減築」ワークショップ運営マニュアル	9
(0)	はじめに(設定条件・全体の流れ)	9
(1)	対象集落の関係者へのワークショップの必要性・意義の共有、動機付け	16
(2)	区長等との事前協議	17
(3)	集落ごとに地域情報を整理	17
(4)	集落別に共同活動等を把握(集落カルテの作成)	18
(5)	合意形成に向けたワークショップ運営	28
3	FAQ集	54
4	使える資料集	57
(1)	地域情報整理のためのデータ集	57
(2)	共同活動の省力化事例集	57
(3)	勉強会のゲスト案	58
(4)	ワークショップの準備物	59

1 これからの集落機能の維持に向けて — マニュアルのねらい —

(1)作成背景

1)京都府による農村地域支援

京都府では、平成元年度以降、農山村地域の活性化を図るための話し合いの支援、地域活動のリーダー育成、都市農村交流の推進等に取り組んできました。

特に、平成21年度に創設した「共に育む『命の里』事業」では、過疎化・高齢化が進む農山村地域の再生を図る総合対策として、ソフト対策・ハード対策に加えて、地域担当の府職員「里の仕事人」、地域づくりを担う民間人材「里の仕掛人」(後の「里の公共員」)をそれぞれ地域に配置し、複数集落が連携した地域運営組織の形成を支援しました。この取組が京都府の農村地域対策の大きな転機となり、この頃より、旧村単位の広域的な農村コミュニティの形成と集落支援員や地域おこし協力隊の地域への配置等の人的支援が府内各地で進みました。

さらに、農村地域の人口減少対策として、平成28年4月に「京都府移住の促進のための空家及び耕作放棄地等活用条例」を施行し、移住者の受入体制づくりと空家等の活用の促進を図るとともに、平成30年度からは「農村型小規模多機能自治推進事業」により、地域の「なりわい」づくりと地域運営組織の法人化を支援してきました。

そして令和5年度からは、将来人口規模に見合うよう地域共同活動等のあり方を見直し再構築する取組と、農山漁村発イノベーションを促す取組との両方を支える「京のむらづくり推進事業」により、人口減少に対応できる地域運営体制づくりを一層進めることにしています。

2)求められる集落・住民自治のあり方

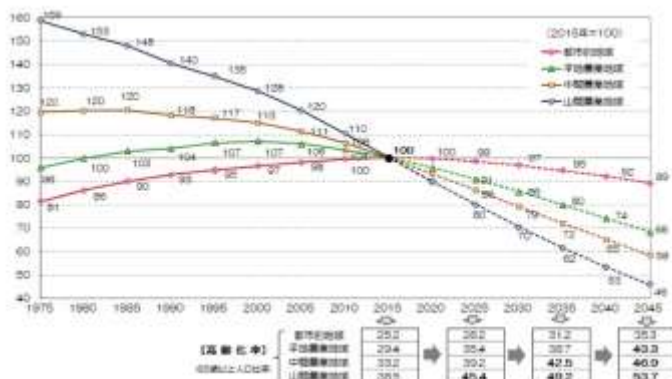
①人口減少・高齢化による集落の小規模化の影響

日本社会全体における人口減少・高齢化の大きな流れは今後数十年、変わらないことが明らかとなっています。

大都市への偏りの是正や地方への移住・定住に取り組まれる中であっても、農村地域においては、それらの取り組みの成果を超えるスピードで人口が減少(若い世代だけでなく、高齢者も減少する段階)し、集落の小規模化が進んでいます。

小規模化した集落では担い手が減少していることで、これまであった集落機能の維持が危がまれる状況、また実際に失われつつある状況があり、生活環境の悪化が想定されるだけでなく、高齢者の暮らしを支える機能(移動・医療・見守り等)がさらに必要となっている状況です。

図1 「農村地域人口と農業集落の将来予測」(出所:農林水産省 令和元年8月30日公表)



注1)国勢調査の組替集計による。なお、2020年以降(点線部分)はコーホート分析による推計値である。

注2)農業地域類型は2000年時点の市町村を基準とし、2007年4月改定のコードを用いて集計した。

図2 「京丹波町某地域*の人口推計」(出所:集落カルテ通り記載)

*令和3年度に「むらの減築」のモデル化を目的とした京都府「農村コミュニティ再構築支援事業」により取組をおこなった地域

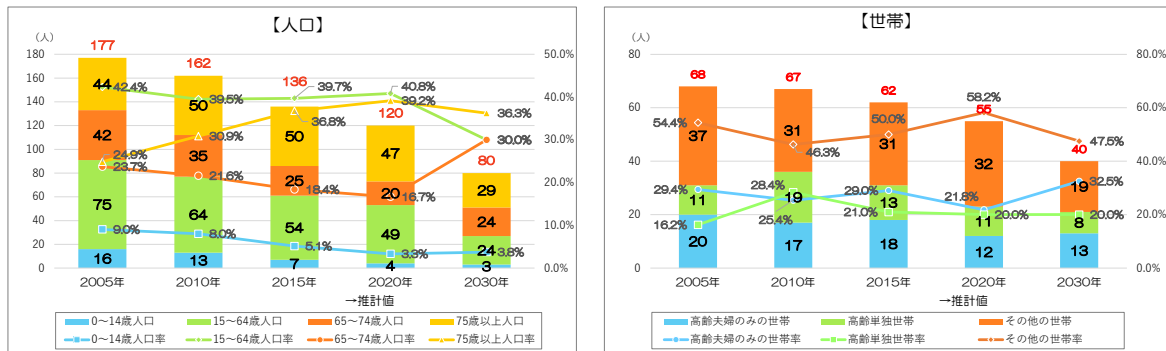
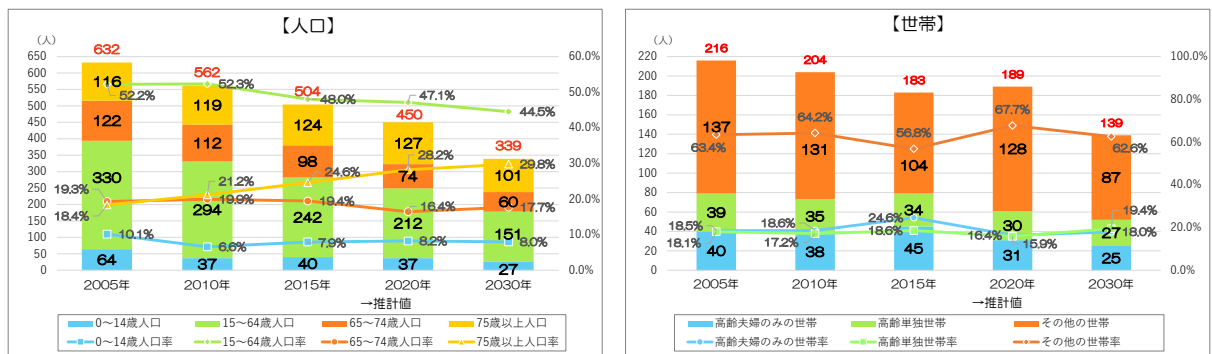


図3 「京丹後市某地域*の人口推計」(出所:集落カルテ通り記載)

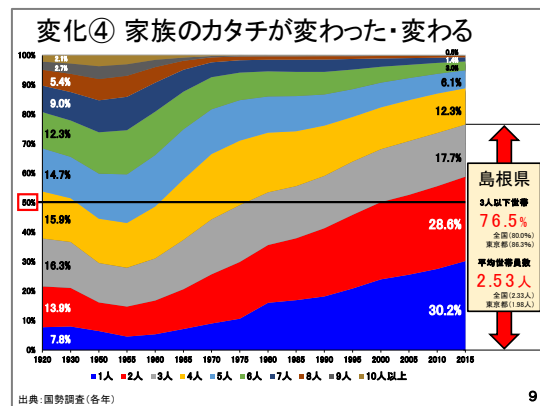
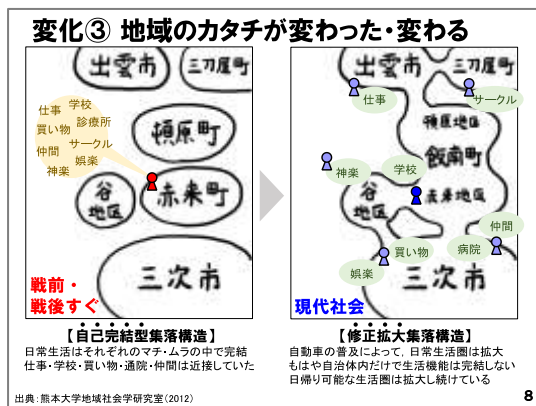
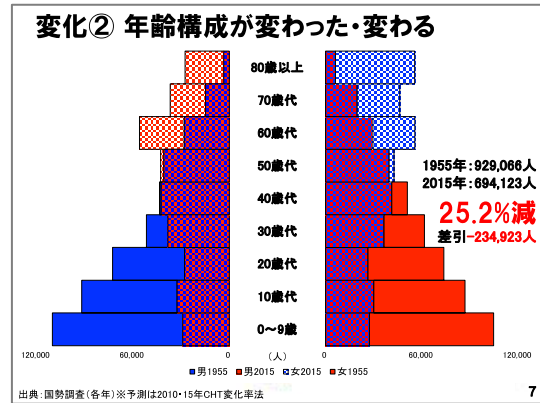
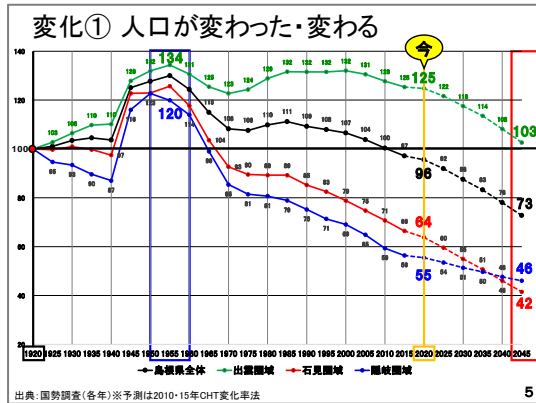
*令和3年度に「むらの減築」のモデル化を目的とした京都府「農村コミュニティ再構築支援事業」により取組をおこなった地域



また、日本、特に農村地域では、人口が減少し続けるという変化、若い世代が減り、高齢者が増えるという年齢構成の変化、日常生活圏が拡大するという変化、家族の人数の減少という変化が生じており、これらの変化に対応する住民自治が必要となっています。

図4 「集落に起きている・起きうる4つの変化」

(出所:島根県中山間地域研究センター 主任研究員 東 良太 氏作成資料)



②将来を見据えた、集落機能の維持の考え方(むらの減築)

農村地域の小規模化する集落では、将来の人口や集落状況を適切に捉えた上で、集落の将来の姿を想像し、集落のあり方を住民が話し合い、共有していく必要があります。またその際には、「現在」「5年後」「10年後」等、時間軸を設けた上で、集落の状況に応じた生活環境の維持に必要なこと、地域の共同活動において、できること・できなくなることを想定し、その対応を検討しておくことが重要です。

その上で、できる限り住民生活に影響がでない形で既存の地域共同活動のあり方を見直し、省力化や周辺集落との共同化、既存の集落組織の機能や役員数の見直し等を具体的に検討し、速やかに実行していくことが求められています。京都府ではこれら一連の取り組みを「むらの減築」と定義します。

一方、同時にこれら「むらの減築」によって、住民自治のみでは継続が困難となる生活環境の維持を補完していく施策・制度も求められます。

3)「むらの減築」における支援者のあり方

将来の集落のあり方や地域共同活動の見直し等の「むらの減築」に向けた話し合いや合意形成においては、住民や利害関係者だけで進めることが困難なことが多く、支援者の関わりが不可欠です。

①支援者が必要とされる理由(支援者のもつ性質)

支援者が必要とされる理由に、主に次の3つが挙げられます。つまり、支援者にはこれらの性質を意識した関わり方が求められます。

【第三者性】

住民や利害関係者だけでは、集落内での関係性等に左右され、対等な立場での率直な話し合いが難しい傾向があります。支援者は「第三者」として、多様な住民が参加し、話し合える場づくりに、ファシリテーターや調整役として貢献する役割があります。

【専門性】

住民自治や集落に関する一定の専門知識を持つとともに、「むらの減築」にむけて、集落の状況や将来についてさまざまな方法で調査・分析し、誰もが理解しやすい情報として整理し伝えることや、合意形成にむけて、議論を積み上げていくために話し合いの内容を整理することなど、住民や関係者が正しい情報に基づいて話し合いのプロセスを着実に踏むことができるよう支える役割があります。

これらの専門性は、集落の住民やその関係者が持てることが好ましいですが、小規模な集落では困難なことが多く、支援者に必要とされる役割といえます。

【補完性】

支援者には、話し合いの中で漏れ落ちている視点、十分に把握できていない情報や声、住民では対応できないこと(作業時間、スキル等)等を補完する役割があります。

②支援者の姿勢・視点

「むらの減築」に向けた支援において、求められる支援の姿勢や視点は次の3つが挙げられます。支援者にはこれらの姿勢を持ち続けることと、そのために必要な知識やスキルが求められます。

【伴走する支援】

集落の今後のあり方や共同活動を見直し、合意形成を進める「むらの減築」は、当然ながらその主体は「住民」であり、権利や関係性を持つ人が主体となって進めていくべきことです。このとき、支援者は、集落や住民が主体となり「取り組むべきこと・取り組みたいこと・取り組めること」がどうかを適切に見極めることが重要です。

その上で、集落の歩み(話し合いの回数・時間・スピード・取り組み方)に合わせながら、住民が「自分たち」で考え、話し合い、決めることができるよう「プロジェクトの立ち上げから合意形成、意思決定までを伴走する」支援姿勢が求められます。

【背中を押す支援】

住民同士や集落内のさまざまな環境により、前に進みにくい状況が生じることは多々あります。支援者はまずその原因を適切に把握することが重要です。

その原因が「やり方がわからない」のであれば、やってみせる、「情報や知識がない」のであれば、それらを提供する、気づきや動機が必要であればその機会を用意するなど、適切に介入し、その障壁を取り除く「背中を押す」支援が求められます。

【外部資源(人材・情報等)をつなぐ支援】

集落が直面する課題への対応に向けては、様々な専門知識・情報が必要になります。支援者がその全てを持つ必要はありませんが、適切に外部資源をつなぎ、必要となる専門知識や情報を補う支援が求められます。

※住民同士や関係者の多様かつ丁寧な「対話」の場づくりの重要性

いずれの支援についても共通して、支援者が行うべきこととして「対話」の場づくりがあります。集落の今、そして将来について、住民・関係者1人ひとりが「じぶんごと」として考え、取り組むためには、「誰でも・何でも」お互いに話せる場づくりが不可欠です。自分の考えや意見を話すことで、主体性が生まれ、自ら行動しようとする姿勢につながります。一部の役員・関係者や支援者だけで話し合いをするのではなく、タイミングや内容に応じて、多様な人たちが丁寧に「対話」できる場を戦略的かつ計画的につくっていくことが求められます。

③支援者属性による役割の違い

「むらの減築」に向けた支援においては、いわゆる民間の支援組織・人材(中間支援者)と、市町村(基礎自治体)と府(広域自治体)とが、それぞれの立場や組織・行動規範に応じて、適切な役割を分担して取り組むことが望ましいと考えられます。

以下では、本マニュアルを作成する前提となった3地域での「むらの減築」の取り組みをもとに、その役割の概要を記載します。

【民間支援組織・人材(中間支援者)】

- ・話し合いや対話の支援、ファシリテーション
- ・話し合いの内容整理
- ・集落の情報の整理・分析(集落カルテの作成)
- ・先進事例や必要な情報の収集・整理・提供
- ・住民のモチベーション(意欲)や取り組み姿勢の向上につなげるコミュニケーション 等

【基礎自治体(市町村)】

- ・集落に関わる過去～現在までの取り組み情報の整理
- ・集落が必要とする支援や機能補完、集落に対する行政依頼事項等の見直し・検討
- ・日常的な集落とのコミュニケーション・状況把握(アウトリーチ) 等

【広域自治体(府)】

- ・国・府などによる制度や支援に関わる情報の収集・提供
- ・市町村と民間支援組織・人材、集落との全体調整
- ・市町村や集落への取組の動機付けや話し合うべき課題の提示
- ・「むらの減築」を進めるために必要な支援施策や制度設計 等

なお、本マニュアルに記載する「むらの減築」に向けたプロセスには、支援者の属性ごとに果たした役割等も併せて記載します。

(2) マニュアルのねらい

本マニュアルは、(1)で述べてきた、これからの集落のあり方、支援者の役割を念頭において、集落のこれからのあり方を、住民や集落関係者自身が、情報を整理し、対話と協議を行いながら、集落の組織や体制、共同活動等を変えていく「むらの減築」を実現するためのプロセスと支援ノウハウを広く共有することを目的として作成しました。

① マニュアル対象者：支援者

本マニュアルの活用主体は、集落の役員等の住民ではなく、集落支援に取り組む自治体(広域・基礎自治体)・民間団体・専門家等を想定しています。

② マニュアルの情報源：京都府内3地域での実践から

令和3、4年度に京都府内の3地域において、「むらの減築」のモデル化を目的に実施した京都府「農村コミュニティ再構築支援事業」により得られた知見をもとに作成しています。

(3) マニュアルの読み方・使い方

① コンテンツの特徴

本マニュアルでは、ワークショップの内容や進め方等の「やり方」だけではなく、住民や関係者との話し合い・情報整理・支援のためのコミュニケーションなど支援者に求められる「姿勢」「能力」について、実践から得られたポイントを重視して記載しています。

② 集落に合わせたカスタマイズが不可欠

歴史・文化・立地等地域状況、人口や年齢構成、住民の気持ちや考え方などが、集落ごとに多様であることを踏まえて支援することが重要です。

本マニュアルは、その多様性を前提として作成しており、支援者がそれぞれの集落の多様性に合わせてカスタマイズし、活用されることを期待しています。

③ 支援者による学び合いとアップデートを期待

本マニュアルを活用した支援者が相互に学び合い・各地での実践例を共有、ノウハウを整理できるよう、定期的にアップデートすることを前提に、余白を残したマニュアルとしています。

マニュアルにおける用語の定義

本マニュアルにおいて、使用する用語のうち、場や人によってその定義や読み手の理解が異なる用語について、本マニュアルでは以下のように定義して、使用します。

- ・ 農村地域：主に農林業に根差した住民の暮らし・営みが古くから続いている、人口密度が相対的に低い地域。人口規模や面積等は定義しない。
- ・ 集落：主に農村地域において、必要な生活環境、神社・寺院の管理や祭り等を共同で実施している範囲。なお、「区」「自治会」等、その地域の呼び名で記載する場合もある。人口規模や面積等は定義しない。

- 地域：複数の集落が、文化・生活・教育等を背景に有機的に繋がっている範囲（例：小学校区）。集落より広い範囲を指す。
- （地域）共同活動：主に集落、または複数の集落の範囲において、生活環境・農林業等の環境維持のために、住民が共同して行う作業（例：草刈りや溝掃除のような日役・村用、共同墓地の管理、公民館等集会施設の管理、獣害対策、祭り等）
- ワークショップ：多様な住民が参加し、同じ情報を共有した上で、それぞれの考えを自由に発言し、対話し、特定の話題や課題について理解を深め、整理する話し合いの場。ワークショップという言葉は、一般的には住民にとって馴染みの薄い非日常の言葉であることに留意し、集落ではできる限り使用しないようにしている。

2 「むらの減築」ワークショップ運営マニュアル

(0)はじめに(設定条件・全体の流れ)

- ・はじめに、運営のおおまかな流れと、各工程に必要な工数の目安を示します。
- ・なお、設定条件は下記の2パターンとします。

【パターン1】

- ・ワークショップ対象は5つの区(=集落)で構成される1地域
- ・各区の共同活動等の地域情報を集落カルテとして整理し、共有
- ・共同活動と役員活動の見直しを検討
- ・ワークショップ回数は全5回
- ・ワークショップ各回の参加人数は1地区1~4人程度(全部で10人程度)

【パターン2】

- ・ワークショップ対象は5つの区(=集落)で構成される1地域
- ・各区の共同活動等の地域情報を集落カルテとして整理、共有
- ・共同活動の見直しを検討
- ・ワークショップ回数は全3回
- ・ワークショップ各回の参加人数は1地区5~10人程度(全部で30~50人程度)

※以下、【パターン1】と【パターン2】で共通する箇所は【パターン1・2共通】と記載

あくまで目安です。
対象地区数や参加人数
によって変化します。

ワークショップ間の
期間はできる限り
1カ月以上空けな
いようにする。
←期間が長く空く
と、参加者のモ
チベーションの
維持が難しくな
る。また、以前の
ワークショップの
記憶が薄れてし
まう。

■運営の大まかな流れ

- ・はじめに、ワークショップの実施に向けた準備・調整を十分に行います。
 - ・「取組の段階(地区や集落の方の取組理解や検討状況)」を意識し、ワークショップの目的やゴールをその都度設定しながら進めます。
- ※取組意義の理解度や認識の共有度合いによって、あえて前段階に立ち戻ることも重要です。

【パターン1】



【パターン2】



■所要工数の目安

【パターン1】

<支援者の所要工数>

ワークショップ全体の企画や進め方の
検討、打ち合わせ、資料作成等

運営の流れと作業工程		所要工数の目安					
		現地での所要人数・時間			関連する 作業時間	合計	
		人数	時間	計			
準備段階				13.0h	45.0h	58.0h	
①	支援地域の自治体担当者との打ち合わせ	5人	2.0h	10.0h	15.0h	25.0h	
②	支援地域の代表的組織・人物(自治会・自治会長等)との打ち合わせ	2人	1.5h	3.0h	30.0h	33.0h	
(1)集落カルテの作成				14.0h	90.0h	104.0h	
①	事前調査による集落カルテ作成				70.0h	70.0h	
②	地域住民へのヒアリング	2人	7.0h	14.0h		14.0h	
③	ヒアリング結果の集落カルテへの反映				20.0h	20.0h	
(2)合意形成に向けたワークショップ運営				86.0h	249.0h	335.0h	
①	勉強会講師との打ち合わせ	2人	1.0h	2.0h	20.0h	22.0h	
②	第1回ワークショップ準備				50.0h	50.0h	
③	第1回ワークショップ実施	4人	4.5h	18.0h		18.0h	
④	第2回ワークショップ準備				45.0h	45.0h	
⑤	第2回ワークショップ実施	4人	4.5h	18.0h		18.0h	
⑥	第3回ワークショップ準備				62.0h	62.0h	
⑦	第3回ワークショップ実施	4人	4.0h	16.0h		16.0h	
⑧	第4回ワークショップ準備				40.0h	40.0h	
⑨	第4回ワークショップ実施	4人	4.0h	16.0h		16.0h	
⑩	第5回ワークショップ準備				32.0h	32.0h	
⑪	第5回ワークショップ実施	4人	4.0h	16.0h		16.0h	
				計	113.0h	384.0h	497.0h

※集落カルテやワークショップの内容は次ページ以降を参照

<行政機関の所要工数>

運営の流れと作業工程		所要工数の目安	
		行政機関	
		広域行政	基礎自治体
準備段階		22.5h	20.5h
①	支援地域の自治体担当者との打ち合わせ	12.0h	10.0h
②	支援地域の代表的組織・人物 (自治会・自治会長等)との打ち合わせ	10.5h	10.5h
(1)集落カルテの作成		19.0h	24.0h
①	事前調査による集落カルテ作成	0.0h	10.0h
②	地域住民へのヒアリング	19.0h	14.0h
③	ヒアリング結果の集落カルテへの反映	0.0h	0.0h
(2)合意形成に向けたワークショップ運営		174.0h	44.0h
①	勉強会講師との打ち合わせ	6.0h	0.0h
②	第1回ワークショップ準備	16.0h	0.0h
③	第1回ワークショップ実施	18.0h	9.0h
④	第2回ワークショップ準備	22.0h	2.0h
⑤	第2回ワークショップ実施	18.0h	9.0h
⑥	第3回ワークショップ準備	18.0h	4.0h
⑦	第3回ワークショップ実施	12.0h	6.0h
⑧	第4回ワークショップ準備	22.0h	4.0h
⑨	第4回ワークショップ実施	12.0h	3.0h
⑩	第5回ワークショップ準備	18.0h	4.0h
⑪	第5回ワークショップ実施	12.0h	3.0h
計		215.5h	88.5h

【パターン2】

<支援者の所要工数>

運営の流れと作業工程		所要工数の目安				
		現地での所要人数・時間			関連する 作業時間	合計
		人数	時間	計		
準備段階				4.5h	4.0h	8.5h
①	行政機関との打ち合わせ	3人	1.5h	4.5h	4.0h	8.5h
(1)集落カルテの作成				3.0h	58.0h	61.0h
①	地域住民への アンケート調査結果の整理				28.0h	28.0h
②	区長説明会・カルテ内容確認	2人	1.5h	3.0h	10.0h	13.0h
③	②確認結果の集落カルテへの反映と統 計による地域情報の整理				20.0h	20.0h
(2)合意形成に向けたワークショップ運営				52.5h	140.0h	192.5h
①	第1回ワークショップ準備				37.5h	37.5h
②	第1回ワークショップ実施	5人	3.5h	17.5h		17.5h
③	第2回ワークショップ準備				55.5h	55.5h
④	第2回ワークショップ実施	5人	3.5h	17.5h		17.5h
⑤	第3回ワークショップ準備				47.0h	47.0h
⑥	第3回ワークショップ実施	5人	3.5h	17.5h		17.5h
		計		60.0h	202.0h	262.0h

※集落カルテやワークショップの内容は次ページ以降を参照

<行政機関の所要工数>

運営の流れと作業工程		所要工数の目安	
		行政機関	
		広域行政	基礎自治体
準備段階		16.5h	9.5h
①	支援地域の自治体担当者との打ち合わせ	4.0h	4.0h
②	支援地域の代表的組織・人物 (自治会・自治会長等)との打ち合わせ	8.0h	4.0h
③	支援者との打ち合わせ	4.5h	1.5h
(1)集落カルテの作成		24.0h	9.5h
①	地域住民へのアンケート調査	18.0h	8.0h
②	区長説明会・カルテ内容確認	6.0h	1.5h
(2)合意形成に向けたワークショップ運営		75.0h	30.5h
②	第1回ワークショップ準備	16.0h	2.5h
③	第1回ワークショップ実施	14.0h	8.0h
④	第2回ワークショップ準備	8.5h	2.0h
⑤	第2回ワークショップ実施	14.0h	8.0h
⑥	第3回ワークショップ準備	8.5h	2.0h
⑦	第3回ワークショップ実施	14.0h	8.0h
計		115.5h	49.5h

【パターン1・2共通】

(1)対象集落の関係者へのワークショップの必要性・意義の共有、動機付け

- ・支援対象として想定する集落の関係者(区長や役員・キーパーソン、自治体職員等)と、「ワークショップの必要性」、「その背景にある事実、意義」を共有する場を設け、取り組みへの動機付けと理解を促します。
- ・本ワークショップは、集落にとっては相当の負担と時間を新たに掛けて取り組むものとなるため、集落の関係者の主体的な理解や意欲があって初めてうまく進むものです。
- ・そのため、その必要性や意義の共有をあらかじめ丁寧に行った上で、進めていく必要があります。

●必要性・意義を共有する際のポイント

- ・関係者の説得ではなく、納得を促し、取り組もうと意欲につながる説明とすること(言葉遣い・資料等)。特に行政や外部支援者からの「やらされ感」が生じないように、主体性を重視し、未来志向での説明とすること
- ・集落のこれまでとこれからが全く異なる状況にあること(人口推計や現在の役や共同活動等)など「事実」をきちんと伝えること(頭での理解)
- ・住民の声や気持ち、不安に寄り添い、それらの声をきちんと取り上げ、紹介すること、また他集落での住民の声や取り組みも伝えること(心:共感)
- ・ビジュアルで直感的に理解できるようにすること
- ・具体的にどのようなワークショップや話し合い、またその頻度や負担度があるのかを伝えること 等

●参考:取り組み開始前の集落関係者への説明資料の一部

はじめに

「正直、ちょっと心配」なことは、
なんですか？

人口が減る不安

- ・若者の仕事がない
- ・子どもが少ない
- ・子どもの親世代も少ない

守ってきた土地が荒れる不安

- ・土地・山の管理
- ・空き家
- ・猪、鹿、熊

公共サービスに対する不安

- ・道路や山の整備
- ・高齢者の移手段
- ・イベントやお祭り

はじめに

今後、全国的に急激に人口が減ります

日本の将来人口推計

国内の将来人口推計(千人)

地域	2015年推計	2040年推計	減少率
山 城	570	478	82%
中 央	1,604	1,472	91%
東 京	137	98	72%
西 京	92	138	76%
西 南	97	61	63%
計	3,480	2,288	66%

2040年/2015年比
丹後で37%減
中丹で24%減

はじめに

いわゆる**持続可能な地域づくり**とは？

地域活動に必要な作業量
(お祭り、草刈り、寄り合い・・・)

活動に必要な時間 × 活動の数(回)

みんなの力(できる量)

使える時間 × 現役世代人口

上手に減らそう (もう少し、新しく入ってきた人も大歓迎・・・)

今後も減る(高齢者)

はじめに

これからの「暮らしやすい」を考えよう!

「集落カルテ」をつくろう

～10年後の地域と共同活動の様子を知ろう～

【パターン1・2共通】

(2)区長等との事前協議

・はじめに、区長や役員、地区のキーパーソン等への事業説明・協議を行います。

★また、進捗状況等を確認する場を定期的に設定することは、よりよい企画運営につながりやすくなります(ワークショップの企画段階など)



●協議の内容(例)

- ・当事業の説明(目的・進め方(案))
- ・支援者の紹介
- ・地区でのこれまでの取組状況、困っていることなど
- ・地区での合意形成の仕組みや体制
- ・当面の進め方
(集落ヒアリングや勉強会の招集範囲、集まりやすい時間、場所、方法 など)
- ・地区での連絡方法(行政機関、支援者、地域(役員)、住民間の連絡・情報伝達の方法)
- ・その他、地区に入るにあたっての留意点

【パターン1・2共通】

(3)集落ごとに地域情報を整理

- ・統計データ、市町村が保有する資料、地域の広報等、既存資料から分かる範囲で作成します。
- ・整理した情報は、集落カルテ(後述)のフォーマットに記載(また図式化)していきます。

整理する情報(集落カルテの項目)	参照資料の例
①人口構造(動態・予測)	・国勢調査 ・国土交通省・国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」
②地理・歴史などの地域特性	・マップ情報 ・地震ハザードマップ ・防災マップ ・文化財等の資料
③地域施設の情報	・マップ情報
④共同活動・行事	・地域の広報誌 ・地区の活動にかかわる資料
⑤地域内組織とその役職・関係性	・区長会・協議会等の会議資料 ・まちづくり計画
⑥地域に関する住民の認識・意見	・地域住民への過去のアンケート結果

(4)集落別に共同活動等を把握(集落カルテの作成)

【パターン1・2共通】

①集落カルテとは

集落の現状を把握し、これからの状況変化をイメージするための地域情報を整理したもの。

※22ページ～26ページ参照

②集落カルテの目的、使い方

- ・共同活動の省力化を検討するワークショップ等に先立ち、参加者に地域情報等を共有する。
- ・支援後においても、引き続き住民が自分たちで暮らしやすい地域にするための検討材料の一つとして、集落カルテを用いて集落の現状や将来予測を確認する。

③集落カルテ作成の意義(メリット)

- ・集落の資源・課題を定量・定性的に把握できる
⇒それぞれがもつ地域情報を1つに束ねることができる(共通認識を持つことができる)
- ・これまでの集落の歴史(文脈)や、活動の経緯を知ることができる
⇒世代ごと、移住者(新住民)の情報量の差を埋めることにつながる
- ・課題を明らかにする(仮説を立てる)ことにつながる
⇒何が必要で(取り組むべきか)、何が必要でないか(やめられるか)の判断材料となる
⇒ワークショップ等の話し合いの場で深めるべき情報にあたりをつけられる

④集落カルテに掲載する情報

※別添のサンプル参照

●集落カルテの情報 ※下記項目をすべて整理する

(ア)これまでとこれからの人口構造

(イ)地理・歴史などの地域特性

(ウ)住民が共同管理している地域施設の情報

(エ)住民の共同活動の現状、地域の毎年の行事 ※次表記載例を参照

(オ)集落内組織とその役職・関係性 ※次表記載例を参照

(カ)集落に関する住民の認識・意見

<活動の掲載基準>

- (ウ)の施設維持管理の活動や(エ)の共同活動に当てはまるのは、以下の活動や内容とする。
- ・地区の活動として住民に共通認識されている活動(たとえ地区のためになる活動だとしても、個人や有志としての活動は含まない)
 - ・イベントや教室・サロン、祭りなどの活動は、その活動の運営に必要な内容(打合せ等会議、開催に向けた準備・調整、当日運営、後片付け等)のみ掲載し、運営に携わらず当日に参加するだけのものの人数や時間は含まない。

【記載例】集落内組織とその共同活動一覧表 ※京都府内某区の事例

①組織名	②活動名称	③内容	③掛けている人数と時間				
			人数	時間数	頻度(年間回数)	延べ時間	
■維持管理							
〇〇区	公民館の大掃除	区役員が大掃除	7	3	1	21	
	公民館の事務員活動	清掃、区費の管理等	1	8	216	1,728	
	グラウンド、区民駐車場の草刈り	区役員、公民館役員が草刈り	17	3	3	153	
	倉庫の清掃	区長が適宜掃除	1	1	1	1	
	区内水路、側溝の泥上げ		全区民による泥上げ	280	2	1	560
			区役員による搬出作業	10	4	1	40
	ため池、水路法面等の草刈り	区民に参加者を呼びかけ草刈り	35	3	1	105	
	水路、取水井堰周辺の草刈り、点検	水路関係者に参加者を呼びかけ草刈り、井堰点検補修	25	2	1	50	
小学校の農業体験提供	5年生に田植え、稲刈り、籾摺り等の農業体験	12	2	3	72		
〇〇村づくり委員会	河川堤防の草刈り	区民に参加を呼びかけ堤防の草刈り(春、夏)、刈草焼却(夏)	25	4	3	300	
	村内道路一斉クリーン作戦	区民に参加を呼びかけ区内道路のごみ拾い(春、秋)	20	2	2	80	
	〇〇公園整備	雑木伐採、下草刈り、園路整備	5	3	40	600	
〇〇団地管理組合	〇〇団地の貯水池、ポンプ、ファームポンドの維持管理	ポンプ室定期点検	1	1	12	6	
		施設維持管理	3	1	3	9	
〇〇農用地等利用改善組合	区内農用地の利用調整	区内農用地の利用調整の手続き	2	1	2	4	
〇〇農地水環境保全委員会	ため池、水路、農道等農業用施設の草刈り	草刈り	25	4	2	200	
	ひまわり畑の整備、管理、種まき	ひまわりの植栽で遊休地利活用	整備、管理	5	2	1	10
			種まき	30	1	1	15
	有害鳥獣防止フェンス設置	農地の外周にフェンス設置	6	6	30	1,080	
■地区活動							
〇〇区	秋祭り	会議、奉納団体の準備・練習(太刀、楽、神楽、笛ばやし)、準備、当日運営、片付け	世話方会議	36	1	1	36
			奉納団体の準備(太刀)	50	2	14	1,400
			奉納団体の準備(楽)	40	2	10	800
			奉納団体の準備(神楽)	30	2	10	600
			奉納団体の準備(笛ばやし)	25	2	10	500
			前日準備	200	1	1	200
			当日運営	250	1	1	250
			後片づけ	100	2	1	200
	〇〇祭り	会議、準備、当日運営	8	4	1	32	
	〇〇神社例祭(夏祭り)	会議、準備、当日運営	20	5	1	100	
	公民館体育大会	会議、準備、当日運営	隣組会議	250	1	1	250
準備、当日			20	3	1	60	
納涼祭	会議、準備、当日運営	50	5	1	250		

①組織名	②活動名称	③内容	③掛けている人数と時間				
			人数	時間数	頻度(年間回数)	延べ時間	
	地藏盆	会議、準備、当日運営	60	5	1	300	
	防災訓練	全区民による災害対応訓練	会議	15	1	1	15
		訓練		150	2	1	300
	子供相撲大会	会議、準備、当日運営	10	1	3	30	
	〇〇文化祭	会議、準備、当日運営	20	8	1	160	
	しめ縄奉納	神社奉納しめ縄を編み、奉納	会議、準備、当日運営	12	3	1	36
			30	3	1	90	
〇〇公民館	広報誌発行	広報誌の作成	1	4	3	12	
	子供キャンプ	1泊2日の子供野外活動体験	会議、準備、片付け	8	1	4	32
		会議、準備、当日運営、片付け	活動(子供キャンプ)	30	19	1	570
	区内の環境美化	会議、草刈り、標柱設置	8	2	6	96	
〇〇村づくり委員会	さくら草沿道設置	プランター700個を区内の沿道に配置 苗づくり、土づくり、苗ポット上げ、土入れ・定植、設置、片付け	10	3	6	180	
	〇〇祭り	模擬店、カラオケ、テーブル準備、片付け	15	8	1	120	
〇〇福祉の会	モーニングサロン	高齢者・区民のふれあいサロン運営	6	3	10	180	
	子育てサロン	子育てサロン運営	2	3	12	72	
	のびのび健康体操	のびのび健康体操開催	2	1	40	80	
緑友会	区内植物の観察と保全活動	区内植物の観察と保全活動(視察)	区内山林の観察	7	5	1	35
			視察	20	8	1	160
〇〇長寿会	グラントゴルフ、輪投げ	当日運営	8	2	6	96	
	遠足	遠足	10	5	1	50	
消防団	防犯活動	夜警	3	0.33	24	24	
		年末警戒	10	3	3	90	
		花火警戒	5	2	1	10	
■寄り合い・情報伝達							
〇〇区	役員会	開催	7	1	4	28	
	隣組組長会	開催	32	1	3	96	
	区費審議会	開催	12	1	2	24	
〇〇公民館	役員会	開催	15	1	3	45	
	部会	開催	39	1	2	78	
	事務員活動	配布物	1	8	24	192	
〇〇村づくり委員会	総会	開催	20	1	1	20	
	班会	開催	20	1	1	20	
〇〇福祉の会	総会	開催	16	1	1	16	
〇〇区防災会議	会議	開催	16	1	1	16	
〇〇団地管理組合	総会	開催	20	1	1	20	
	役員会	開催	12	1	1	12	
〇〇農用地等利用改善組合	総会	開催	20	1	1	20	
〇〇農地水環境保全委員会	総会	開催	20	1	1	20	
緑友会	例会	開催	20	1	6	120	
〇〇農事組合	総会	開催	25	1	1	25	

①組織名	②活動名称	③内容	③掛けている人数と時間			
			人数	時間数	頻度 (年間回数)	延べ 時間
	水田営農情報の共有	青空教室への参加	3	1	3	9
		営農情報の配布	25	0.5	3	37.5
〇〇保存会	役員会	開催	40	1	2	80
〇〇長寿会	例会	開催	20	1	8	160
	役員会	開催	10	1	4	40
消防団	会議	開催	4	1	6	24
〇〇共済推進 委員会	総会	開催	6	1	2	12
	啓発活動	農業共済の推進(冊子配布)	6	0.5	6	18

⑤集落カルテの作成方法

【パターン1】

「(3)集落ごとに地域情報を整理」で整理した情報(シート)をもとに、ヒアリングにより行います。

○ヒアリングの対象

- ・地域情報をよく知る人物 (例)区長、区役員、委員 等

○ヒアリングの方法

- ・A案:区の役員会で時間をいただいて実施
- ・B案:対象と個別に調整して実施
- ・C案:地域情報をよく知る人物を含め、住民を多く集めて実施 など



★ヒアリングは、集落カルテの項目ごとに伺っていきます。

- ・事前作成で埋まっていない情報を中心に伺います。
- ・埋めた情報に誤りがないかも確認します。
- ・共同活動は、内容、かけている人数・時間をあわせて確認します(数値データとして把握)。

ヒアリングの前に、カルテを作成する意義、むらの減築や共同活動を省力化する意義を丁寧に伝え、理解いただくことが重要です。

【パターン2】

④の「集落カルテの情報」のうち、(ウ)、(工)、(オ)を記載するアンケート調査票を作成し、各区の区長や役員など、情報を把握している人物に配布し、回収する。

★自治体(特に基礎自治体)の役割

- 集落カルテの記載項目について地域の事情に詳しい人物を把握し、その人物へのヒアリングやアンケート配布のセッティングを行う。

人物の例)地区の区長、区役員、地域のリーダー的人物

【パターン1・2共通】

⑥集落カルテの整理方法(ヒアリング・アンケート後の対応)

★集落カルテは一度作成すれば完成ではなく、時間経過や状況変化とともに支援者や地域が修正しながら、将来にわたって活用されることを想定して作成します。

○集落カルテの確認・ブラッシュアップに向けて

- ・ワークショップ等で参加者にシートを配布し、一緒に内容を確認します。
⇒現在の地域の共同活動量や役の数・人数、人口・世帯数の推移予測を確認し、むらの減築の内容を検討する材料とします。
- ・ワークショップ等で得た情報で必要に応じて集落カルテの追記・修正を行います。
- ・支援者が入らなくなったあとは、地域住民が自ら集落カルテを活用し、状況変化に応じて更新していくことを、地区の役員等と共有します。

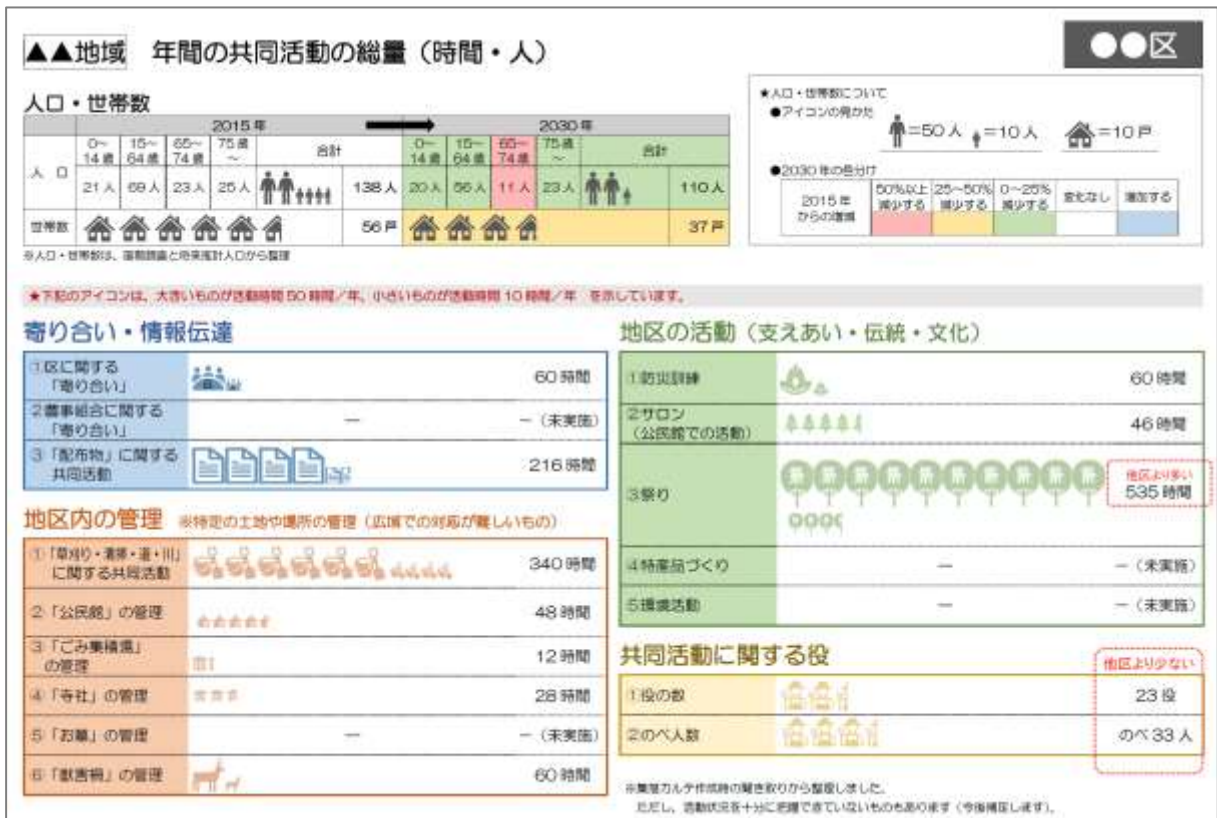
⑦集落カルテの概要版(共同活動などの見える化シート)

・集落カルテの情報は細かい内容も含んでいるため、現在の共同活動の状況が一目でわかる概要版を作成します。

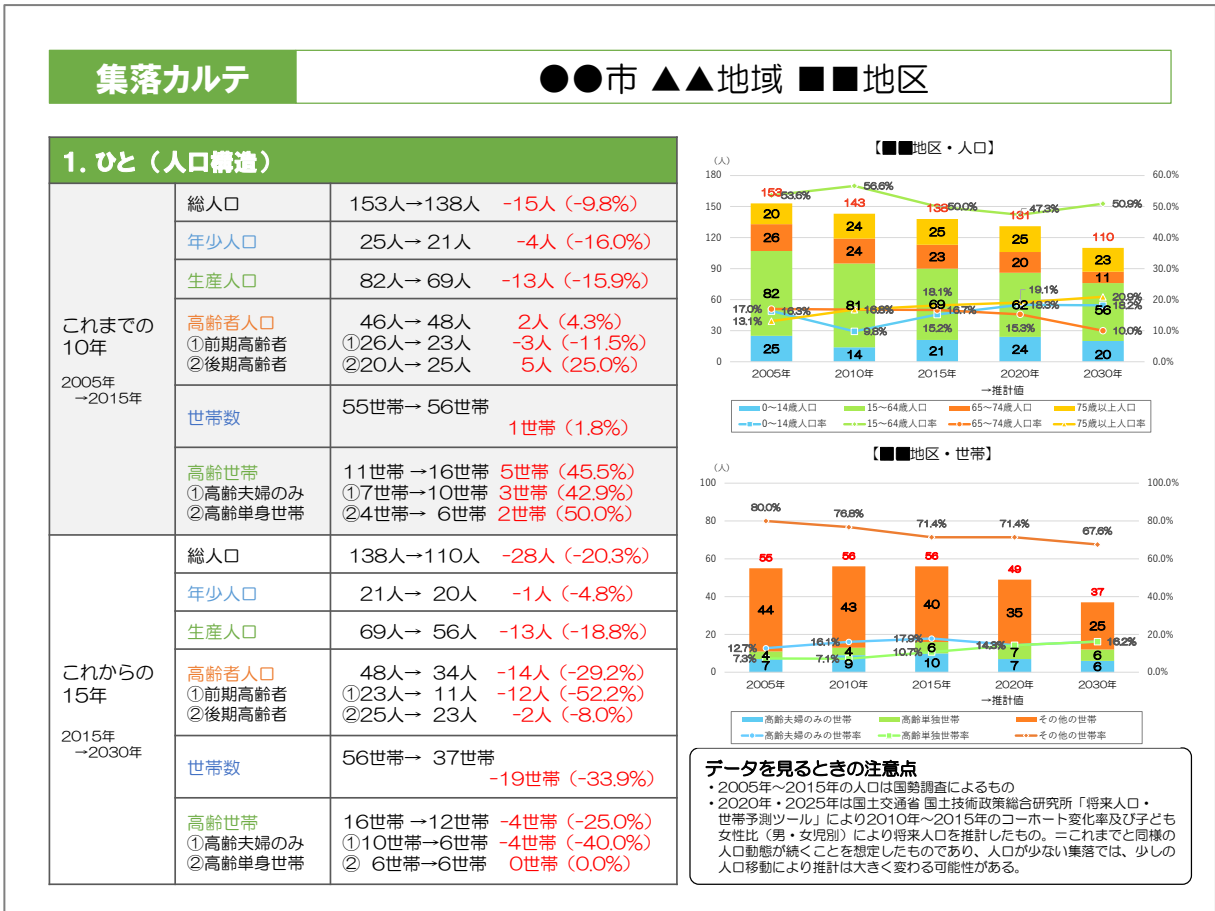
★ビジュアル化により、「どの共同活動の負担が大きいのか」を分かるようにすることが重要です。

●協議の内容(例)

- ・人口・世帯数の現状と将来
- ・共同活動ごとの活動時間
- ・共同活動に関する地域の役の数と人数



●参考:集落カルテのフォーマット例



2. 地理・歴史（地域特性）

地理	地区面積	3,223 ㎡
	環境	[農地面積] (R3.6現在) 田3551.01 a・畑100.86 a [森林面積] 258.40ha (国有林以外)
	災害情報	[地震ハザードマップ] (想定) ●●断層地震-震度6弱~7 [防災マップ] 土砂災害(急傾斜地の崩壊・土石流) 外水による浸水(0.5未満~3.0未満の想定) [過去の災害]
	隣接する 集落・自治会	●●市△△・●●市□□
歴史 文化	寺社仏閣	●●神社
	文化財	[京都府暫定登録文化財] (建造物) ●●神社本殿 [その他の文化財]
住宅	住宅数	● 不明
	空家数	○ (把握している数)
産業	産業別就業者数	農業8人、製造業13人、医療、福祉5人等 (H27)
	事業所等	● 小規模多機能型居宅介護 ●●の家
観光	観光施設	●●公園
交通	バス	●●バス(●●線) 先行: ●●-●●公園 バス停-●●

集落カルテ

●●市 ▲▲地域 ■■地区

周辺地図・位置図



防災マップ



3. 地域施設

住民での 共同管理 施設 場所	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ●●地区公民館 概要/状態 管理の状況 など
	集会所	
	広場	
	農地	
	山林	
	水路・側溝	
教育施 設・公共 サービス	集落内に あれば	<ul style="list-style-type: none"> ● ●

集落カルテ

●●市 ▲▲地域 ■■地区



集落カルテ

●●市 ▲▲地域 ■■地区

4. 共同活動・作業（守りの地域活動）

伝統事業	[年末年始催事] ・	[関連する寄り合い・会議] ・回数、時間、人数 ・場所、内容
	[季節の催事] ・花火大会（8月）区民・帰省者の交流。 ・クリスマス（12月）該当者宅を訪問し、プレゼントを渡す。	[関連する寄り合い・会議]
	[祭り] ・納涼祭（8月）区民・帰省者の交流。万灯、模擬店。 ・秋祭（10月）	[関連する寄り合い・会議]
共同作業	[清掃] ・■■遊園地整備（7月）夏休みに子どもたちと一緒にラジコ体操をした後、草取り・遊具の手入れ。	[関連する寄り合い・会議]
	[防犯・防火活動]	[関連する寄り合い・会議]
	[山林点検・管理] ・ [獣害柵点検]	[関連する寄り合い・会議]
	[ごみ集積所点検]	[関連する寄り合い・会議]
	[その他]	[関連する寄り合い・会議]
支え合い活動	・社会見学（10月） 区民の交流を深める。	[関連する寄り合い・会議]

合計： 会議 のべ 人 時間

月	毎年の行事 ※青字は毎年恒例、黒字は恒例が不明
4	
5	
6	●●まつり（地域合同？）
7	■■川の草刈り、公民館及び■■神社の除草作業
8	納涼祭・万灯 花火大会
9	●●登山道整備作業（地域合同）
10	敬老会 秋祭り 社会見学
11	●●地区文化祭（地域合同） ■■公園音楽祭（地域合同）
12	クリスマス（該当者宅を訪問し、プレゼントを渡す） 「●●カレンダー」を発行（地域合同）
1	
2	お雛様展示 ～3月（地域合同？）
3	人形（お雛様）供養（■■寺）（地域合同？） 区総会 林道、要排水路の整備。■■神社の清掃作業



5. 活性化に向けた活動（攻めの地域活動）

集落の活性化に向けた活動を実施していれば、具体的に記載。

- ・2015、2018年11月 ■■■フェスタの開催（△△・〇〇・■■の村づくり委員会主催）
- ・2016年7月～ ■■大学地域活動（文化祭、地域住民との交流等）（地域全体）
- ・2016年12月 区長会で■■市■■地区へ視察研修（高齢者による地域資源■■の活用について）
- ・2017年3月 区長会で「これからの地域のあり方や構想」について話し合い（地域全体へ住民アンケート実施）
- ・2017年～ 11月 ■■地区文化祭の開催（地域全体）
- ・2019年11月 ■■■フェスタの開催（地域全体）
■■地域現役世代ワークショップ（全2回）（地域全体）
「暮らしやすい」を考えようをテーマに、同地区にお住いの30-50代の方々を対象に開催
- ・2019年12月 ■■■カレンダーの発行（地域全体）



集落カルテ

●●市 ▲▲地域 ■■地区

2018（H30）年度●●地区協議会活動報告

日付	曜日	行事名	主な内容
8.18	水	第1回■■地区協議会	19年度活動報告及び会計報告 H30年度活動について H30活動、参加大学地域活動
8.18	土	■■大学	■■内夜、協賛会平塚市有線電話協議
8.18-19	土-日	第1回■■大学地域活動	■■地区協議会（学生協議、■■学生自治会との交流 参加レポート）
9.18-19	土-日	第2回■■大学地域活動	全生農村もみせ、■■地区協議会、■■地区協議会、■■地区協議会 そはけもみせ、■■地区協議会、■■地区協議会
9.28	金	第2回■■地区協議会	■■地区協議会、■■地区協議会について 参加報告と交流について
8.18-19	土-日	第3回■■大学地域活動	参加報告と交流について 参加レポート
8.18	水	第3回■■地区協議会	■■地区協議会、■■地区協議会について 参加報告と交流について
10.18	土	■■大学地域活動	文と学社つむぎ、■■大学24時-協議会役員
11.18	金	第4回■■地区協議会	■■地区協議会、■■地区協議会 協議会役員、■■大学24時-協議会
11.18	土	第2回■■地区文化祭	■■地区協議会
12.14	金	第4回■■地区協議会	■■地区協議会、■■地区協議会 協議会役員、■■地区協議会、■■地区協議会 参加報告と交流について、■■地区協議会、■■地区協議会
12.18	日	第1回■■大学地域活動	■■地区協議会
12.18	金	■■物産科はニコニコ交流隊	■■地区協議会、■■地区協議会 参加報告と交流について、■■地区協議会、■■地区協議会
12.18	土	■■新年は感謝祭イベント	■■地区協議会、■■地区協議会



6. 地域内組織・役職・関係性

組織	組織名	[活動内容] [規則] [意思決定方法]
	組織名	[活動内容] [規則] [意思決定方法]
	組織名	[活動内容] [規則] [意思決定方法]
	組織名	[活動内容] [規則] [意思決定方法]
役職	役名	人数 (R3年度:)

合計： 人 役
重複 役

集落カルテ

●●市 ▲▲地域 ■■地区



各組織・役職の関係図

7. 住民意見・認識

関係人口・交流人口	<ul style="list-style-type: none"> ・親戚、子ども世代の往来頻度、Uターン意向 ・まちづくり・観光等での集落・地域に関わる人口、Iターン意向 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来は、「UJターンの増加」を希望している住民が多い。
地域課題	<p>地域の課題認識 住民ニーズ</p> <p>共同活動でしんどいこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少や高齢化のため、「連合区の強化」を望んでいる。 ・距離的な問題や他地区との交流主題がないことから「単独区の強化」を望んでいる。
地域資源	<p>地域の資源 生かせること</p> <p>共同活動の強み (組織内部)</p>	
その他	今後に向けて参考となる意見	<ul style="list-style-type: none"> ・将来は、「区」の発展を望んでいる住民が多い。 ・将来は、「若い人が帰ってきて、子どもたちの賑やかな声が聞こえる地域」を望んでいる住民が多い。

集落カルテ

●●市 ▲▲地域 ■■地区

▲▲5地域 地区アンケート結果より抜粋 (調査時期 2017.3~2018.5)

■質問① 今後この地域に暮らしたいと考えていますか

地域	①考えている	②考えたい	③考える必要もない	④わからない
■■■	100%	0%	0%	0%
■■■	100%	0%	0%	0%
■■■	100%	0%	0%	0%
■■■	100%	0%	0%	0%
■■■	100%	0%	0%	0%

■質問② 将来的にこの地域に暮らしたいと考えていますか

地域	①理想の地域	②現実の地域	③理想と現実
■■■	100%	100%	100%
■■■	100%	100%	100%
■■■	100%	100%	100%
■■■	100%	100%	100%
■■■	100%	100%	100%

■質問③ 住むに決まらないうちから、住むべき地域を教えてください

地域	①住むべき	②住むべき	③住むべき	④わからない
■■■	100%	0%	0%	0%
■■■	100%	0%	0%	0%
■■■	100%	0%	0%	0%
■■■	100%	0%	0%	0%
■■■	100%	0%	0%	0%

R1_第1回協議会資料より

(5)合意形成に向けたワークショップ運営

①各ワークショップの内容と支援者の役割

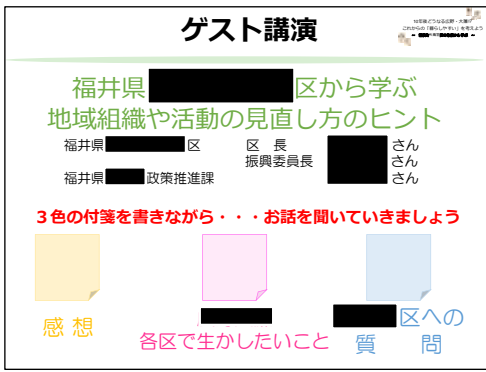
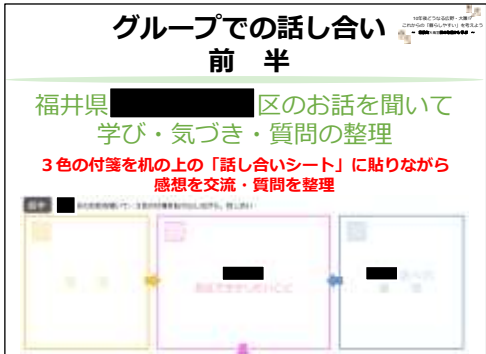
【パターン1】

■第1回ワークショップ(勉強会)

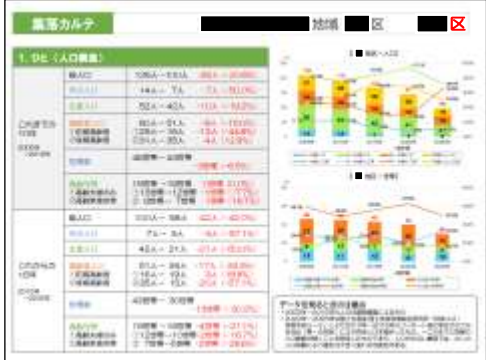
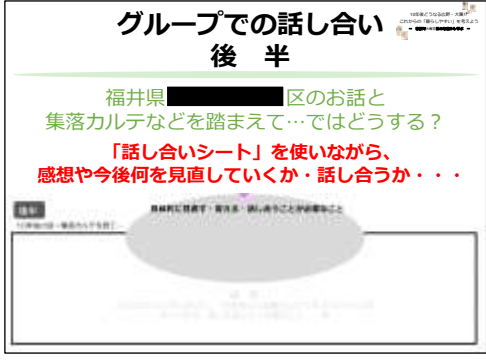
支援者としての役割

- ・勉強会を通じて、各区で生かせることを考えてもらう
- ・集落カルテを読み解き、共同活動の状況や将来の地域の様子を伝える

テーマ	これからの地域づくりと「むらの減築」にむけた勉強会、各集落に関する取組情報等を地域で共有
ねらい	・5年後、10年後、20年後も変わらずに暮らすための工夫について区を越えて考えるきっかけにする ・「集落カルテ」から、地域の現在と未来を参加者で把握・共有する
参加対象	・対象地域住民(各役員だけでなく、移住者や若い世代、出身者にも重点的に声掛け) * 事前協議で参加しておくべき人のあたりをつける
準備物	次第・プログラム、講演資料(配布可能であれば)、集落カルテ・集落カルテのまとめ、感想カード、予告チラシ、ワークシート

①【講演】(60分)	内容	メモ
 <p>ゲスト講演</p> <p>福井県 [] 区から学ぶ 地域組織や活動の見直し方のヒント</p> <p>福井県 [] 区 区長 振興委員長 [] さん 福井県 [] 政策推進課 [] さん</p> <p>3色の付箋を書きながら・・・お話を聞いていきましょう</p> <p>感想 [] [] [] 区への質問</p> <p>各区で生かしたいこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域組織や活動の見直し方のヒントを得る ・参加者には、付箋を配布しておき、感想・気づき・質問を記入する 	<p>【講演のテーマの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口が減少することについて、大きな負担を感じず、豊かに暮らすために、暮らしやすい地域にしていくことの大事さなど ・共同活動のあり方・考え方、省力化の取組など ・他地域の取組事例
②【ワーク】(15分)	内容	
 <p>グループでの話し合い 前半</p> <p>福井県 [] 区のお話を聞いて学び・気づき・質問の整理</p> <p>3色の付箋を机の上の「話し合いシート」に貼りながら感想を交流・質問を整理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに感想・気づきを出し合う ・全体で講師への質疑・応答 	



③ [共有・ワーク](25分)	内容	メモ
	<p>○集落カルテの紹介・詳しい考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分以外の区、隣の区についても、人口・世帯・各役や集落の共同活動の特徴を知る ・将来の集落の姿について「じぶんごと」としてリアルに認識し、想像してもらおう、具体的に伝える 	<p>【集落カルテを読み解くポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域を動かしているコア世代や共同活動の主戦力となる青年世代(30代～50代)の現在、10年後、20年後の人数は？ ・これまでに続いてきた取組、内容が変わってきた取組、無くなった取組には何がある？その理由、背景は？今後は？
	<p>○集落カルテをもとに「10年後どうなっていたらいいか。何を見直し・変えていくべきか」などを話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例での気づき等も含め、各区での将来の暮らしの「ありたい姿」「こうしていきたい」と「不安」「悩み」「気になること」も改めて出し合う・語り合う 	<p>【話し合いの際の投げかけの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去から今までに、変わってきたこと(集落のルールや恒例行事等)も踏まえて、10年後、どうなっていると良い？ ・集落カルテで記入されていない内容等の追加情報(人数時間・事務作業や寄合)があれば補足記録
④ [共有](5分)	内容	
	<ul style="list-style-type: none"> ・学びや気づきの振り返り・共有 ・今後の進め方 ・振り返りシートへの記入 	

<ワークシート(感想・質問を整理する話し合いシート)>





■第2回ワークショップ

支援者としての役割

- ・現況や将来予測を踏まえて、将来の課題について考えてもらう
- ・具体的に見直していくことが出来そうな項目・作業・役を絞り込む

テーマ	将来課題について参加者が気づき、課題を認識、 集落・地域の活動見直しの方向性の整理
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・集落カルテから分かった共同活動の状況や将来の地域の様子を伝え、このままでは暮らしにくくなる可能性が高いこと認識してもらう ・省力化の参考事例や方法を示しながら、変えていける可能性がある地域の役や共同活動について、具体的にまず見直していくこと(重要なこと・優先順位の高いもの)について話し合い、整理、絞り込む
対象	・会長・役員・各種役など4～5人を対象(*女性や世代も考慮)
準備物	次第・プログラム、集落カルテ・集落カルテのまとめ、事例に関する紹介、感想カード、ワークシート

① [導入](10分)	内容	
	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の振り返り ・今回の話し合いの視点 	
② [共有](15分)	内容	メモ
	<ul style="list-style-type: none"> ・集落カルテの整理結果等を解説 ・具体的にどうすれば暮らしやすくなる=負担を軽減しながら、集落を維持できるか考えていくことを各テーマ(「役」「共同活動」など)に分かれて話し合っていく 	<p>【集落カルテを解説する時のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2015年から2045年までの30年間で、現役世代人口・世帯数の推移を確認し、お隣の区と比較しながら自分の区がどうなるか理解してもらう(〇〇区は、2045年に今の〇〇区とほぼ同じ人口になる など) ・作業時間と作業にかかる人数を確認し、将来人口を元に、1人あたりの負担の変化を解説 <p>【集落カルテから分かること(まとめ)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の数が少なくなる中でできることは、今以上に頑張るのか、少しずつ活動を減らしていく・やめていくのか、楽に続けられるように工夫をするのかの3通り

③ [ワーク①](45分)	内容	メモ
	<p>○アイスブレイク(自己紹介)兼ねたアイデア出し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落合同であることと、事務局も把握するため、氏名紹介＋テーマ選んだ理由を1人ずつ紹介 <p>○集落カルテの該当部分を読み込む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落カルテの内容を読み込む理解度を高めるファシリテーション(集落カルテ概要版と人口割の資料から読み取れることを事前に確認) <p>○減らすことができそう／できそうにないのアイデア出し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減らすことができそうなもの(やめる、統合する、工夫して負担を減らすなど含めて)／減らすことができないもの(やめられないもの)で考えた時に1人ずつ、思いつくものを付箋に書いて出し合う 	<p>【具体的な見直しの段階に行かない場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは集落カルテを見ながら、「どうしようか」とお互いの考えの出し合いを行う時間を大切にする ・集落カルテ整理結果に対する感想⇒見直しの必要性や意義についてどう思うか ・集落外の方との関わり状況、次世代が地域にかかわる機会の設置状況について意見をいただく ・話が進む集落は、特に何に時間がかかっているか、なぜ時間がかかるか、将来の推計人口で担うとしたら負担感はどうかなど対話しながら考えていただく。 ・話が前に進む区は、工夫して続けるためのアイデアも話し合えればよい。特に、集落外の人を巻き込み、力を借りる方向の議論を進められるとよい
④ [ワーク②](15分)	内容	メモ
	<p>○減らすことができそうなものから重要項目・優先順位を決める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「減らすことができそう」とした内容の中、まず取り組むべき重要な項目を話し合い、決める 	<p>【重要項目・優先順位を決める視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの中で多くの人から出された項目 ・特に負担軽減の効果が高そうな項目 ・まずは手をつけやすい項目
⑤ [共有](10分)	内容	
	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループで出された意見とまず減らしていくために検討、取り組んでいく項目について発表 ・今後見直しを検討していく項目を可視化し、最後にまとめとして紹介 ・今後の進め方 ・振り返りシートへの記入 	

■第3回ワークショップ

支援者としての役割

- ・共同活動の見直し優先順位や方向性の検討を、注意すべきポイントを説明しながら、スムーズに進める。
- ・共同活動の省力化事例を紹介する。

テーマ	集落・地域の活動見直しの具体化
ねらい	・2つの視点(日常生活への影響度合い／負担度合い)から、見直し、変えていくことの優先順位を整理する ・優先順位も踏まえ、10年後の人口等の状況を見据えた、共同活動の総量を減らすためのアイデア出しを行う
対象	・各集落から4～5人(原則同じメンバー + αは可)
準備物	次第・プログラム、集落カルテのまとめ、事例紹介資料、グループワークの説明資料、今後の進め方等の案内資料、振り返りシート

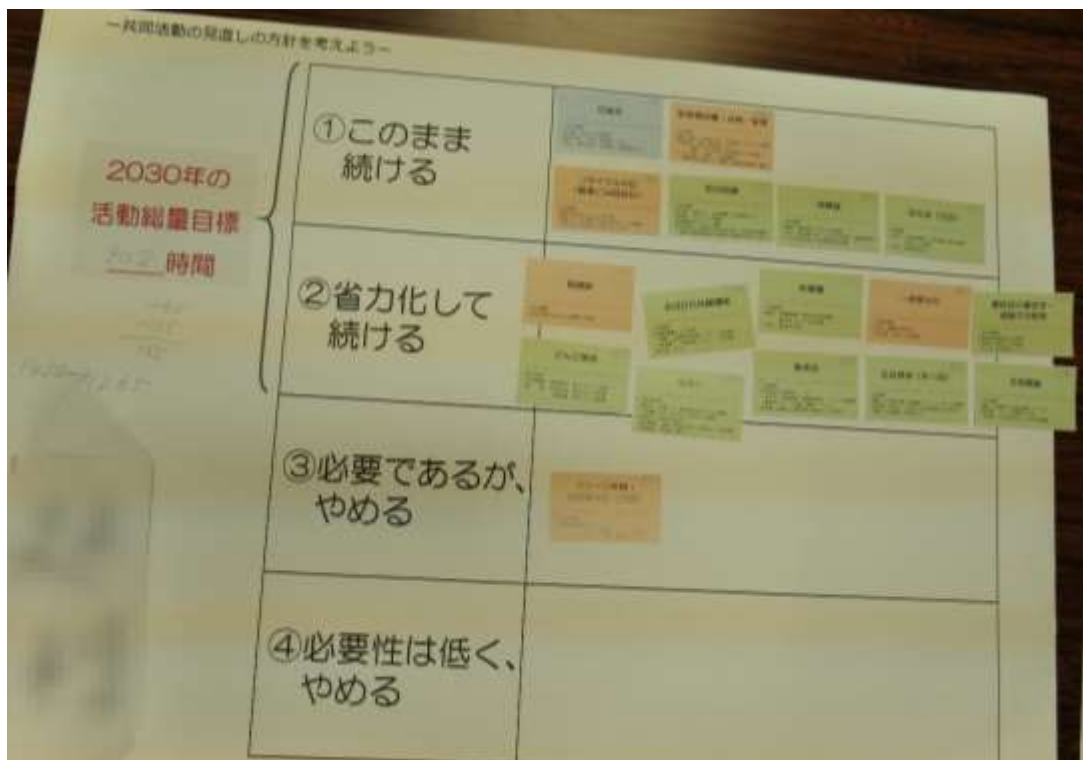
① [導入](10分)	内容	
	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の振り返り ・今回の話し合いの視点 	
② [ワーク①](30分)	内容	メモ
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">共同活動カードを整理しよう</p> <p>(横軸) 負担の度合い →のべ活動時間で機械的に配置</p> <p>(縦軸) 日常生活への影響度合い →暮らしを維持していくために重要か (影響が大きいか)</p> <p>①まず「日常生活への影響度合い」の上下の位置を決める ②次に「負担の度合い」の左右の位置を決める</p> <p style="background-color: #e0e0e0; padding: 2px;">1人1人の意見をもとに、グループで概ね納得する位置に配置</p> </div>	<p>○各活動内容のカードと整理方法の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落カルテを元に整理した活動内容のカードと2軸の分類方法を説明 ・横軸:負担の度合い(例えば、同じ1時間でも負担感が異なるものは入れ替えてOK) ・縦軸:日常生活への影響度合い(暮らしを維持していくために重要か(影響が大きいか)の視点で、グループごとに1人ひとりの意見を聞きながら、配置していく) <p>○見直していく活動を4つの視点(負担の度合い、日常生活への影響度合い)で整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日常生活影響大小」について各カード上下のポジションを決める ・概ね配置できれば、負担大小:負担感の配置が納得できるか確認 ・全体を眺めて調整。全 	<p>【共同活動カードとは…】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの共同活動の情報が整理されたカード ・のべ活動時間(掛けている人数、1回の活動時間、年間の実施回数)や活動内容をカードに記載

	員が概ね納得いく状態にすることがゴール																																										
③ [事例紹介](10分)	内容																																										
	<p>○活動見直し、省力化事例の紹介</p> <p>・各カードに関連する事例または省力化アイデア(実現可能性が高そうなもの)を1つずつ紹介</p>																																										
④ [ワーク②](45分)	内容	メモ																																									
<p>共同活動カードを整理しよう</p> <p>例)</p>  <p>2030年の活動の目標時間数を確認</p> <table border="1" data-bbox="245 949 730 1276"> <thead> <tr> <th rowspan="2">地区</th> <th>現在</th> <th colspan="2">2015年</th> <th colspan="2">2030年</th> </tr> <tr> <th>年間活動総量</th> <th>15~74歳人口</th> <th>1人あたり活動時間</th> <th>推計15~74歳人口</th> <th>目標年間活動総量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>■</td> <td>1,405時間</td> <td>92人</td> <td>15.27時間</td> <td>67人</td> <td>1,023時間</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>1,430時間</td> <td>138人</td> <td>10.36時間</td> <td>87人</td> <td>902時間</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>2,719時間</td> <td>51人</td> <td>53.3時間</td> <td>30人</td> <td>1,599時間</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>983時間</td> <td>50人</td> <td>19.66時間</td> <td>26人</td> <td>511時間</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>341時間</td> <td>9人</td> <td>37.89時間</td> <td>5人</td> <td>189時間</td> </tr> </tbody> </table> <p>※新卒の2030年推計人口のみ現在の要歴の活動人数5人を維持することとする</p> 	地区	現在	2015年		2030年		年間活動総量	15~74歳人口	1人あたり活動時間	推計15~74歳人口	目標年間活動総量	■	1,405時間	92人	15.27時間	67人	1,023時間	■	1,430時間	138人	10.36時間	87人	902時間	■	2,719時間	51人	53.3時間	30人	1,599時間	■	983時間	50人	19.66時間	26人	511時間	■	341時間	9人	37.89時間	5人	189時間	<p>○ワーク①の確認、話し合いの進め方の説明</p> <p>・各グループで右上にどういものが配置されたか確認しつつ、それらが見直しを進める優先順位が高いものと捉えるなどを解説</p> <p>○ワーク①の確認、話し合いの進め方の説明</p> <p>・集落カルテから、共同活動の活動総量を約15年後に現在と同等の負担とするための目標値を確認</p> <p>・ワーク①の分類をもとに、各カードを①このまま続ける、②省力化して続ける、③必要であるがやめる、④必要性は低くやめる に分類</p> <p>・活動総量目標時間数を達成するために各カードに対して、付箋に活動量(時間)を減らすためのアイデアと想定される減量時間を書き込んでいく。(紹介事例やアイデアも参考にしながら)</p> <p>・見直し後の活動総量時間が目標以下になればゴール</p>	<p>【活動総量目標とは・・・】</p> <p>・現在の一人当たりの活動時間に目標時(例えば約15年後)の総人口の推計値をかけた値</p> <p>・①このまま続ける、②省力化して続けるに分類した共同活動カードの時間が活動総量目標の時間以内になるように省力化のアイデアを検討する</p>
地区		現在	2015年		2030年																																						
	年間活動総量	15~74歳人口	1人あたり活動時間	推計15~74歳人口	目標年間活動総量																																						
■	1,405時間	92人	15.27時間	67人	1,023時間																																						
■	1,430時間	138人	10.36時間	87人	902時間																																						
■	2,719時間	51人	53.3時間	30人	1,599時間																																						
■	983時間	50人	19.66時間	26人	511時間																																						
■	341時間	9人	37.89時間	5人	189時間																																						
⑤ [共有](10分)	内容																																										
	<p>・各グループで出された意見について発表</p> <p>・今後の進め方</p> <p>・振り返りシートへの記入</p>																																										

<ワークシート(共同活動カードを整理するシート)>



<ワークシート(共同活動を分類するシート)>



<役員活動に関する宿題(役ごとの活動量の記入)>

それぞれご自身でわかる範囲・知っていることを記入して、次回必ず持ち寄りましょう！

●●区 役員活動量を書き込みましょう

区 お名前：

人数や時間数など、貴方が知っていることを記入いただければ結構です。わからないところは空白でOKです。事前に現役員に聞いたり、事実確認をしたりする必要はありません。表にある役は以前にまとめた「集落カルテ」から引用しています。過不足があれば消したり、空白に書いたりしてください。

その役に就くことで費やしている時間を書いてください(資料づくり・配布、打ち合わせ等全て)

分野	役 (他区共通の役には右欄に○)	人数 (A)	年間活動時間数 (B)	総時間 (A×B)	
例	●●委員	○	2人	月約5時間→60時間	120時間
自治会	区長		人	時間	時間
	班長		人	時間	時間
環境	●●委員長		人	時間	時間
	●●委員		人	時間	時間
税務	●●委員		人	時間	時間
統計	●●調査委員		人	時間	時間
福祉・ 援護	●●委員		人	時間	時間
人権	●●推進委員		人	時間	時間
消防	●●部長		人	時間	時間
体育	●●委員		人	時間	時間
農業	●●組合長		人	時間	時間
	●●		人	時間	時間
林業	●●推進委員		人	時間	時間
	●●組合長		人	時間	時間
交通	●●理事		人	時間	時間
文化	●●		人	時間	時間
寺社	●●		人	時間	時間

■第4回ワークショップ

支援者としての役割

- ・役員活動の現状を確認する。
- ・役員活動の意義・変遷や課題、見直しの方向性を考えてもらう。

※役員活動には行政から依頼している活動もあり、区だけでは見直しできないものもある。住民のニーズ・要望を把握し、一緒に見直しを検討するため、可能な限り自治体の関係課に参加いただくことが望ましい。

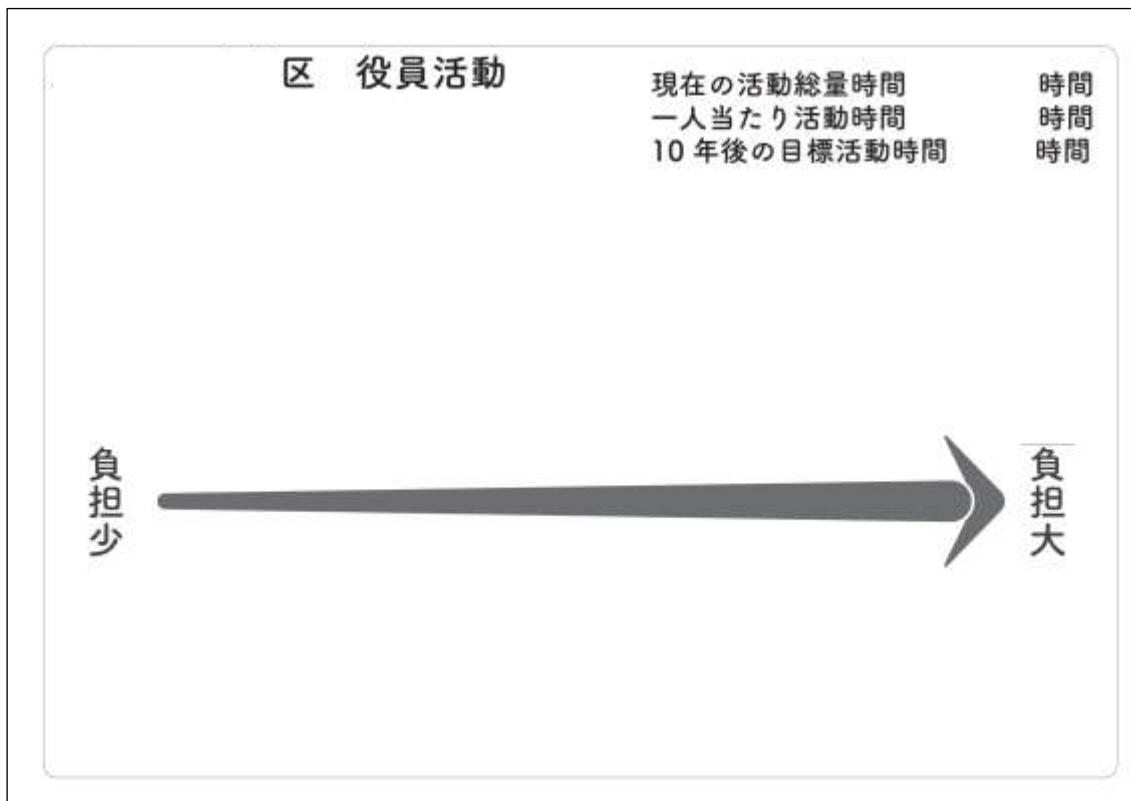
テーマ	集落の役員活動の確認・共有と見直しの方向性の整理
ねらい	・役員活動の活動量・負担感を可視化するとともに、その役の意義・変遷・課題等を確認する。 ・将来の負担減に向けた役員活動の見直しの方向性を検討し、アイデア出しを行う。
対象	・各集落から4-5人(原則同じメンバー+αは可)
準備物	次第・プログラム、集落カルテのまとめ、グループワークの説明資料、役の活動カード、模造紙、今後の進め方等の案内資料、振り返りシート (参加者は前回の宿題を準備)

① [導入](10分)	内容	
	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の振り返り ・今回の話し合いの視点 	
② [ワーク①](45分)	内容	メモ
 <p>〇役の活動量・内容を確認してカードに書き込む</p> <p>それぞれの知っている情報を出し合い、確認しながら</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のべ活動時間を書き込む ・活動内容にチェックする ・「行政からの役」 「区の役」でカードを色分け 	<p>〇役員活動の活動量・内容を確認し、「役の活動カード」を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の宿題を活用し、各自が知っている情報を確認しながら「役の活動カード」に記入し、カードを完成させる。 ・1つの役員活動に仕事が多数ある場合は、仕事ごとにカードを作成 ・「行政からの役」と「区独自の役」でカードを色分け※し、検討の際に分かりやすくしておく。 ・模造紙(後記参照)に、カードを活動時間の大きい順に並べる。 ・ファシリテーターは、模造紙に各役員の活動時間を合計した数字(総活動時間)と一人当たり活動時間、10年後の総活動時間目標を記入する。 	<p>【役の活動カードとは】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各役員活動に関する情報が整理されたカード 〈掲載情報〉 ・仕事に要する人数 ・仕事に要する時間 ・主な仕事内容(選択式)  <p>【活動総量目標とは】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の一人当たり活動時間に、2030年の総人口を乗じた値。 ※一人当たり活動時間は、現在の総活動時間を区の人口で割って算出する。
		

③ [ワーク②](40分)	内容	メモ
<div data-bbox="244 300 730 663"> <p>「役」の負担度を整理</p> </div> <div data-bbox="244 719 730 1081"> <p>「役」の軽減・見直し方法を検討</p> </div>	<p>○ワーク①の確認、話し合いの進め方の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 各区のカード内容、総活動時間と一人当たり活動時間、10年後の総活動時間目標を簡単に紹介。 役員活動の軽減・見直しの考え方を説明 <p>○役員活動を負担軸で整理し、見直しの方向性を検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 各役の負担量や負担感を話し合いながら横軸のどの位置にくるか決め、同時に役の変遷・意義、課題なども話し、付箋に書いてカードに貼り付ける。 活動総量目標の時間数を達成するために、各カードに対して、付箋に活動量(時間)を減らすためのアイデアと想定される減量時間を書き込んでいく。 	<p>【役員活動の軽減・見直しの考え方(例)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 「役」の共同化 「役」の活動内容そのものの見直し 「役」がなくても目的達成できる方法に替える 区に必要な「役」はやめる
④ [共有](10分)	内容	
	<ul style="list-style-type: none"> 各グループで検討した役員活動の見直しの方向性やアイデアを共有 次回の内容、進め方を共有 振り返りシートへの記入 	

※第4回で内容を消化しきれなかった場合は、できなかった部分を第5回にまわしてもOK

<模造紙(役員活動を整理するシート)>



軽減・見直しの考え方（例）

今のうちから
「見直したいこと」
話し合い、変えていくこと

可否は今後の役場や区の役員会での協議や合意形成が必要ですが…

例①「役」の共同化

- 他の集落で共同で役を担う（2集落で1人など）
- その際、負担増加の可能性があることに留意（回る範囲が増える等）し、共同にした方が効率的かどうかも踏まえる。

例②「役」の活動内容そのものの見直し

- 共同作業の見直しと同じように、活動を組み合わせる、方法を変えるなどで負担を減らす（会議の回数を減らす、資料配布を減らす等）

例③「役」がなくても目的達成できる方法に替える

- 特定の「役」の人でなくてもできることを、住民が少しずつ分担する（福祉委員の見守り：毎朝各戸玄関に目印に掲出→ご近所が声かけ）

例④ 区に必要な「役」はやめる

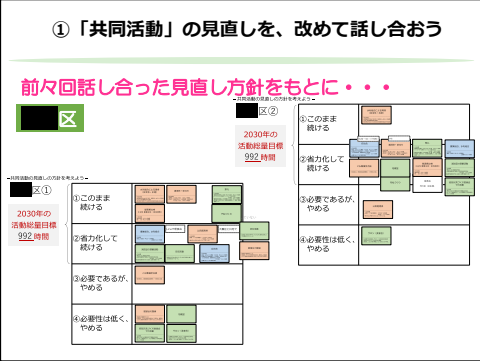
- すでにほとんど活動がない役は、他の役にまとめる
- 行政からの依頼の場合、行政で統合・見直しを行う

■第5回ワークショップ

支援者としての役割

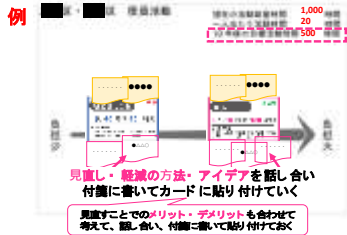
- ・共同活動と役員活動の見直しの方向性、内容(省力化する具体的なアイデア)を考えてもらい、とりまとめる。
- ・見直しについて、すぐに取り組むこと、継続して検討することを考えてもらい、整理する。

テーマ	集落の活動見直しの方向性について参加者内で合意形成
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・集落・地域の活動見直しの方向性について参加者内で合意形成を行う。 ＊その組織の役員会や総会など、しかるべき場所での正式な合意形成の前の案段階を確認するイメージ ・ワークショップ後にできる具体的な行動を話し合い、宣言してもらう。
対象	・各集落から4-5人(原則同じメンバー+αは可)

① [導入](15分)	内容															
	<ul style="list-style-type: none"> ・前回までの振り返り ・今回の話し合いの視点 															
② [ワーク①](80分)	内容															
<p>①「共同活動」の見直しを、改めて話し合おう</p> <p>前々回話し合った見直し方針をもとに・・・</p>  <p>①「共同活動」の見直しを、改めて話し合おう</p> <p>とりまとめシート</p> <p>一この場で確認・合意したことを書き留め、まとめるもの</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>例</th> <th>行事</th> <th>現状・課題</th> <th>見直し方</th> <th>省力後の時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>公民館の掃除</td> <td>・24時間 ・あまり利用していない ・組当番で世帯数に差(負担に差)</td> <td>・隔月掃除とする ・利用後、利用者が掃除を丁寧に行う</td> <td>・16時間</td> </tr> <tr> <td></td> <td>秋祭り</td> <td>・100時間 ・料理が大変 ・祭りは残したい</td> <td>・住出しを利用し料理の負担を減らす ・祭り：交流の時間を残す</td> <td>・60時間</td> </tr> </tbody> </table>	例	行事	現状・課題	見直し方	省力後の時間		公民館の掃除	・24時間 ・あまり利用していない ・組当番で世帯数に差(負担に差)	・隔月掃除とする ・利用後、利用者が掃除を丁寧に行う	・16時間		秋祭り	・100時間 ・料理が大変 ・祭りは残したい	・住出しを利用し料理の負担を減らす ・祭り：交流の時間を残す	・60時間	<p>○共同活動の見直しについて、改めて話し合い、内容をとりまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回で検討した共同活動の見直しの方針(①このまま続ける、②省力化して続ける(省力化のアイデアと時間)、③必要であるが、やめる、④必要性は低く、やめる)を踏まえ、以下を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ▶楽しいこと・残したいこと・続けたいことを改めて確認。 ▶省力化アイデア・方法について改めて検討、深掘り・精査する。 <p>※残したいこと・続けたいことが多くあり、目標時間まで削減できない場合、地域外からの参加を広げる方法を考える 例) 他出者が5人草刈りに参加できるようにする ＝現時点の1人あたりの時間数x5人分 等</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶とりまとめシートに、活動ごとに以下の内容を記載して、確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・現状・課題 ・見直し方(やめる・見直す・そのまま続けるなど) ・省力後の時間 <p>※水路の問題など、根本的に考え直さなければならぬことは結論が出せなくても、話し合った方向性や課題は書き残す</p>
例	行事	現状・課題	見直し方	省力後の時間												
	公民館の掃除	・24時間 ・あまり利用していない ・組当番で世帯数に差(負担に差)	・隔月掃除とする ・利用後、利用者が掃除を丁寧に行う	・16時間												
	秋祭り	・100時間 ・料理が大変 ・祭りは残したい	・住出しを利用し料理の負担を減らす ・祭り：交流の時間を残す	・60時間												

② 「役」の見直しの方向性・アイデアを話し合おう

前回の話し合いで書き込んだ「模造紙」を使いながら



② 「役」の見直しの方向性・アイデアを話し合おう

とりまとめシート

一区で確認・合意したことを書き留め、まとめるもの

例	役の担持 (担っていること)	具体的にやっていること	見直し方	省力できること・効果
戸別訪問	①区長 ②民生児童委員 ③組長	①・・・の配布 全戸 ②・・・声掛け安否確認(月・日) 対象者 ③集金・・・	・全戸を訪問する役員がその程度声掛けする・・・	・訪問回数 の削減 ・見守りの 強化
会議 (参加すればよいもの)	①区長 ②・・・委員	①・・・会議へ出席 ②・・・会議へ出席	・会議の日・同時開催等	・会議数 ・出席回数 の削減 ・効率化
行政からの案内の配布	①体育委員 ②・・・委員	①運動会の案内 全戸 ②・・・のお知らせ・参加確認 全戸	・行政からの案内役を1人にまとめる、その他に役割がない役は廃止、委員名が必要であれば1人にまとめる	・案内作業の効率化 ・実質的な役の削減

○役員活動の見直しについて、改めて話し合い、内容をとりまとめる。

・第4回で作成した模造紙(役員活動を整理するシート)を踏まえ、以下を行う。

- ▶負担の大きい役員活動を確認。
- ▶第4回時に活動の見直しアイデアを検討しきれていない場合、見直しメリット・デメリットも確認しながら、負担の大きいものから見直しアイデアを具体的に話し合い、付箋に書いていく。

▶それぞれの役員活動について、以下の項目を話し合い、とりまとめシートに書き、確認する。

- ・役が担っている機能
- ・具体的にやっていること
- ・見直し方
- ・省力できること・効果

③ [ワーク②](20分)

内容



○とりまとめシートの活動の見直し方について、今後の動き方を考える。

・ワークショップで検討した活動の見直しについて、正式な区の話し合いに繋がられるように、今後の動き方を考え、整理する。

- ▶活動の見直しについて、以下の(ア)～(ウ)に整理する。
 - (ア)すぐに区で合意して実行するもの
 - (イ)引き続き話し合うべき大きな課題
 - (ウ)もっと大きな範囲(広域)で話し合いが必要なもの
- ▶(ア)～(ウ)について、今後、どのような場で、誰と確認し、実行していくのかを考え、付箋で貼る。

④ [共有](10分)

内容

・各区から、活動の見直しと今後の動き方について報告し、共有する。

・今後の進め方について説明
←ワークショップで決めた今後の動き方を実際に進めていってほしいこと、その際の支援について(決まっていれば)など

・振り返りシートへの記入

<共同活動の見直しのとりまとめシート>

区・区 「共同活動」とりまとめ			
行事	現状・課題	見直し方	省力後の時間
(例) 公民館清掃	24時間	使ったときに清掃する	16時間

区 「共同活動」とりまとめ			
行事	現状・課題	見直し方	省力後の時間
② 省 略 化 し て 続 け る 公民館清掃 ①	月に2回 掃除 (1回120分)	4回まで に減らす ← 2回まで に減らす (年4回位)	16時間 40時間
お地蔵さん お堂の掃除 草刈り	年3回(1回1回は全面 残り2回は2/3位) 3回も必要ない	年に1回 全員で掃除 草刈	180分 180分
消防団の 啓蒙活動	広野 大町で実施 月1	5集落でまわす(1/6に)	5時間
秋祭	続けていきたいにこ	人口減少でこれに活動時間 は減る	75時間
杯道 山道 管理	年2回→1回にして 試し中		
嘗害柵点検	年1回 まわり回らない	個人で対応	

<役員活動の見直しのとりまとめシート>

区・区 「役員活動」とりまとめ				
役の機能 (担っていること)	具体的にやっていること		見直し方	省力できること・効果
(例) 戸別訪問	(例) 区長	(例) 資料の配布		

区・区 「役員活動」とりまとめ				
役の機能 (担っていること)	具体的にやっていること		見直し方	省力できること・効果
(例) 戸別訪問	(例) 区長	(例) 資料の配布	配付の → 依頼へ 提案	配付回数 の削減 減少
	民生委員	・会議への参加		配付回数 の削減 削減
	生涯森林 組合	・会議	必要予定	

区・区 「役員活動」とりまとめ 行政からの役 (この考え)				
役の機能 (担っていること)	具体的にやっていること		見直し方	省力できること・効果
(例) 戸別訪問	(例) 区長	(例) 資料の配布	必要	必要 不要
	交通安全 評議員	旗女子 会議		
	遺族会	8/5行事参加	代行あり 将来的には 必要	必要 必要 強い
	体育委員	大会案内	必要	必要 不要

【パターン2】


■第1回ワークショップ

支援者としての役割

- ・ワークショップの目的をしっかりと伝える。
- ・現況や将来予測を踏まえて、将来の課題について考えてもらう

テーマ	各集落に関する取組情報等を地域で共有 将来課題について参加者が気づき、課題を認識
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・集落カルテの内容を確認・共有し、誤りの修正や抜けている部分の追記を行い、カルテを完成させる。 ・集落カルテや予想される地域の将来状況を地図に描くワークを通じて、地区の将来の担い手減少や共同活動の負担増を確認・実感してもらい、このままでは暮らしにくくなる可能性が高いことを認識してもらう。 ・区ごとに地域の現状や将来などについて話し合い、共同活動の見直しについてや、見直しにあたってどのようなメンバーで議論する必要があるかを検討してもらい、継続的に見直しの議論をしていく意識を醸成する。
対象	・会長・役員・各種役など5～10人程度を対象
準備物	次第・プログラム、集落カルテ・集落カルテのまとめ、進行スライド(取組趣旨、今回の目的・内容、集落カルテ内容等)、振り返りシート

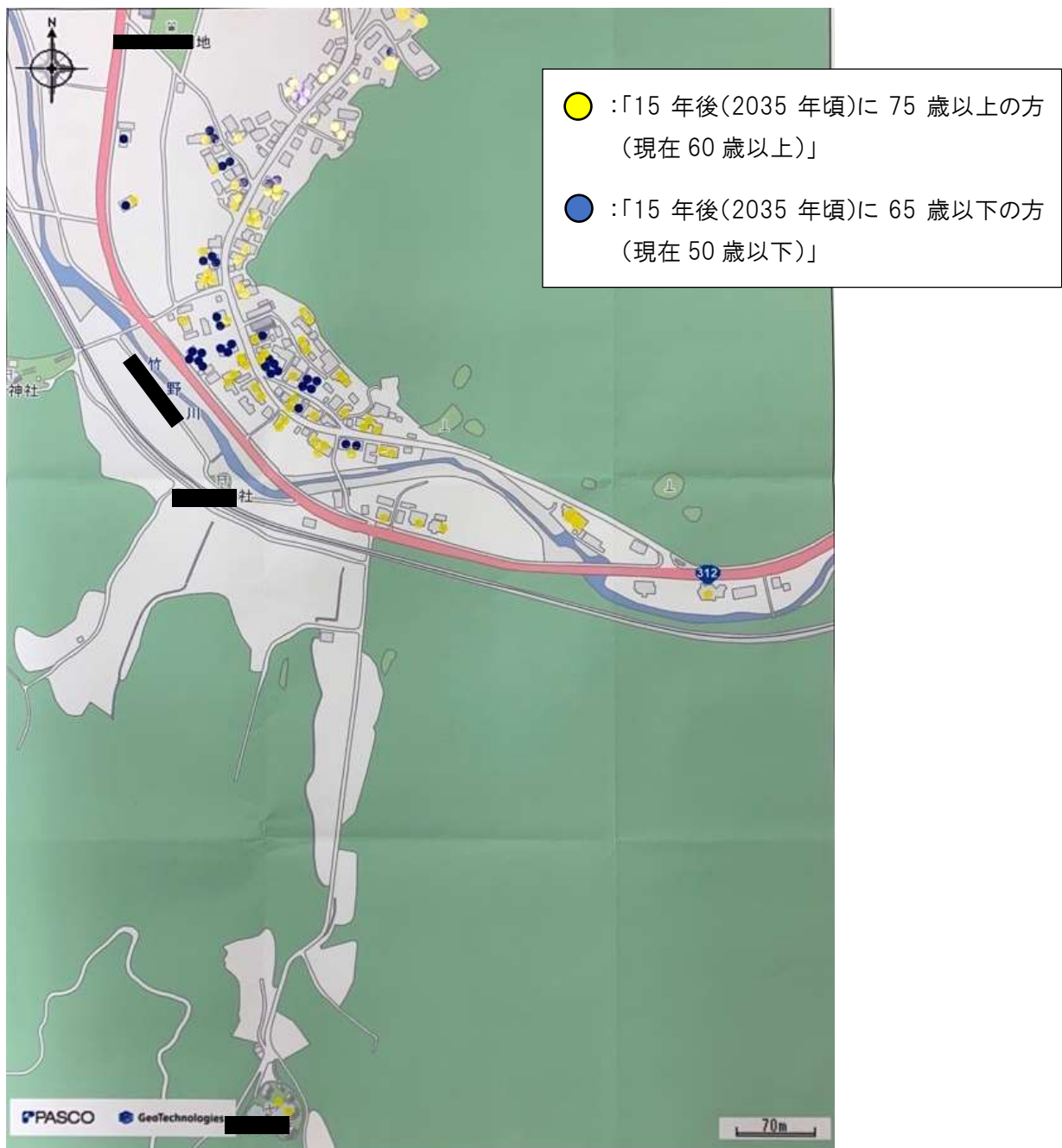
① [導入](20分)	内容	メモ
<p>これから3回のワークショップは</p> <p>縮小する地域・区において、暮らしやすさを維持するために区・共同活動・役について、見直していく(工夫する・減らす・やめる)スタートの場です</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・取組の趣旨説明 ・運営体制の紹介 ・ワークショップの趣旨・プログラム説明 ・今回の内容紹介 	<p>【趣旨説明の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりに大きな影響を与えている変化 <ul style="list-style-type: none"> ア:人口減 イ:年齢構成(高齢化率高) ウ:家族の形(核家族化、単身世帯増) エ:地域の姿(生活範囲が拡大) ・担い手不足、暮らしの質の低下が進むこと ・住民自治・行政も変化が必要
② [共有+確認+意見交換](30分)	内容	メモ
<p>集落カルテを詳しく見てみる ～共同活動の負担はどれだけ増える?～</p> <p>1人あたり※年間活動時間の変化 ※16-74歳</p>	<p>全体で(10分)</p> <p>○集落カルテの解説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の傾向、各区の特徴、区の比較など ・25年後の人口予測・人口ピラミッドの解説(生産年齢人口の減少等) ・共同活動のジャンル別の活動量 ・現在と将来(15年後)の 	<p>【集落カルテを解説する時のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在から約25年間で、現役世代人口・世帯数の推移を確認し、お隣の区と比較しながら自分の区がどうなるか理解してもらう(〇〇区は、2045年に今の〇〇区とほぼ同じ人口になる など) ・作業時間と作業にかか

<p style="text-align: center;">集落カルテを詳しく見てみる ～共同活動の負担はどれだけ増える?～</p> <p style="text-align: center;">まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> このままだと、ひとりあたりの負担は増える。 いつか、継続できない活動が出てくる。 お隣の区も、実は大変。 <p>人の数が少なくなる中でできることは、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 今以上に頑張る ② 活動を少しずつやめていく ③ 省力化して続ける工夫をする <p>のいずれかです。</p>	<p>共同活動の生産年齢人口一人当たりの年間活動時間の比較(どれくらい増えるか)</p> <p>↓ 各区で(20分)</p> <p>○集落カルテの確認・修正、意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> 集落カルテの詳細を確認し、誤りの修正や抜けている情報の確認を行う 自身の地区の集落カルテを確認して思ったこと、感想を話し合う 	<p>る人数を確認し、将来人口を元に、1人あたりの負担の変化を解説</p> <p>【集落カルテから分かること(まとめ)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人の数が少なくなる中でできることは、今以上に頑張るのか、少しずつ活動を減らしていく・やめていくのか、楽に続けられるように工夫をするのかの3通り
<p>③ [ワーク①](20分)</p>	<p style="text-align: center;">内容</p>	<p style="text-align: center;">メモ</p>
<p>例えば・・・シール等は例です</p>  <p>15年後(2035年頃)に75歳以上の方(現在60歳以上)がおられる家と人数 15年後(2035年頃)に65歳以下の方(現在50歳以下)がおられる家と人数</p>	<p>○各区で地図に以下の情報を入れる</p> <p>ア:「15年後に75歳以上の方がおられる家と人数＝現在60歳以上」 イ:「15年後に65歳以下の方がおられる家と人数＝現在50歳以下」</p> <p>※すべての家の情報を入れなくてもよい。全て入れられない場合は、地区の中でも最も情報が分かる範囲や、参加者の多くが知っている範囲の家について実施</p>	<p>【地図への情報の入れ方】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地図への情報は丸シール等で入れる。 アとイは別の色のシールを使い、人数分のシールを地図の各家に貼る <p>【ワークの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> アは将来担い手から支えられる側になり(気にかかる世帯・人)、イはアを支える将来の担い手になる。将来の支えられる側と支える側の人数を確認しあうことで、将来の地域の担い手減と支える必要のある人数増を認識する
<p>④ [ワーク②](30分)</p>	<p style="text-align: center;">内容</p>	<p style="text-align: center;">メモ</p>
<p style="text-align: center;">グループでの話し合い</p> <p>○カルテを見ながら、抜けている部分を埋めあう</p> <p>○「どうしようか」とお互いの考えの出し合う 例: カルテ整理結果に対する感想 ⇒見直しの必要性や意義について</p> <p>○特に、</p> <ul style="list-style-type: none"> 何に時間がかかっているか、 なぜ時間がかかるか、 将来の推計人口で担うとしたら負担感はどうかなどについて、意見を出し合う 	<p>・各区でカルテと地図を眺めて意見交換を行う</p>	<p>【話し合いのポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「どうしようか」とお互いの考えの出し合いを行う時間を大切にする 地域活動の見直しの必要性や意義についてどう思うかを聞き出す 次回、見直しを進めていくために、誰に参加してもらい一緒に話し合っていく必要があるか考える(例えば、次の担い手となる世代など) 話が進む集落は、特に何に時間がかかっているか、なぜ時間がかかる

		か、将来の推計人口で担うとしたら負担感はどうかなど対話しながら考える
⑤ [共有等](15分)	内容	
	<ul style="list-style-type: none"> ・各区の感想や話し合いの内容を全体に共有 ・今後の進め方について ・振り返りシートへの記入 	

<地図への情報プロット>

※集落の住民の個別情報を扱うことになるためデータ・情報の管理に特に注意すること

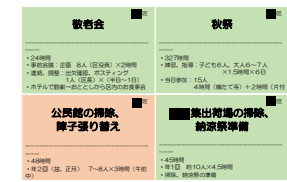


■第2回ワークショップ

支援者としての役割

- ・共同活動の見直し優先順位や方向性の検討を、注意すべきポイントを説明しながら、スムーズに進める。
- ・共同活動の省力化事例を紹介する。

テーマ	集落・地域の活動見直しの優先度・方向性の検討
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの視点(日常生活への影響度合い／負担度合い)から、見直し、変えていくことの優先順位を整理する ・優先順位も踏まえ、10年後の人口等の状況を見据えた、共同活動の総量を減らすためのアイデア出しを行う
対象	・第1回に参加した会長・役員・各種役など5～10人程度に加え、共同活動の見直しと一緒に考えるべき住民が対象(女性・若者・移住者などの参画を考慮)
準備物	次第・プログラム、集落カルテのまとめ、事例紹介資料、進行スライド(前回振り返り・感想抜粋、今回の目的・内容、ワークの説明資料、第1回のワークで作成した各区の地図(原本またはデータ化したもの)、振り返りシート

① [導入](15分)	内容	
	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の振り返り ・今回の話し合いの視点 	
② [共有](10分)	内容	
	<ul style="list-style-type: none"> ・各区で集落カルテの内容を再確認する ※特に第1回に参加していない初参加者 	
③ [ワーク①](30分)	内容	メモ
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">共同活動カードを整理しよう</p> <p>(横軸) 負担の度合い →のべ活動時間で機械的に配置</p> <p>(縦軸) 日常生活への影響度合い →暮らしを維持していくために重要か (影響が大きいか)</p> <p>①まず「日常生活への影響度合い」の上下の位置を決める ②次に「負担の度合い」の左右の位置を決める</p> <p style="background-color: #e0e0e0; padding: 2px;">1人1人の意見をもとに、 グループで概ね納得する位置に配置</p> </div>	<p>○各活動内容のカードと整理方法の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落カルテを元に整理した活動内容のカードと2軸の分類方法を説明 ・横軸:負担の度合い(例えば、同じ1時間でも負担感が異なるものは入れ替えてOK) ・縦軸:日常生活への影響度合い(暮らしを維持していくために重要か(影響が大きいか)の視点で、グループごとに1人ひとりの意見を聞きながら、配置していく) <p>○見直していく活動を4つの視点(負担の度合い、日常生活への影響度合い)で整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日常生活影響大小」について各カード上下のポ 	<p>【共同活動カードとは・・・】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの共同活動の情報が整理されたカード ・のべ活動時間(掛けている人数、1回の活動時間、年間の実施回数)や活動内容をカードに記載  <p>【共同活動カードの分類のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区として分類をするのではなく、あくまで体験として分類するため、1枚1枚に時間をか

<p style="text-align: center;">共同活動カードを整理しよう</p> <p>例)</p>	<p>ジションを決める</p> <ul style="list-style-type: none"> 概ね配置できれば、負担大小:負担感の配置が納得できるか確認 全体を眺めて調整。全員が概ね納得いく状態にすることがゴール <p>○配置に関する説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 右上に配置した活動ほど、見直しの優先度が高いものと捉えることを解説 	<p>けず、スムーズに進める</p> <p>【活動の配置に関する視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「負担大+日常生活への影響小」の活動で今も継続されているものは、相応の理由(歴史、思い入れ)があるものが多い 右上の取組をやめてしまえば、負担を減らしやすい。もし、これらのできる限り継続したいのであれば、他の「負担大」にある活動を工夫して減らすことを考える必要があることを説明 																																														
<p>④ [共有](5分)</p>	<p style="text-align: center;">内容</p>	<p style="text-align: center;">メモ</p>																																														
<p style="text-align: center;">2035年の活動の目標時間数を確認</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">地区</th> <th rowspan="2">現在 年間 活動総量</th> <th colspan="2">2020年</th> <th colspan="2">2035年</th> <th rowspan="2">目標年間 活動総量</th> </tr> <tr> <th>15~74歳 人口</th> <th>1人 あたり 活動時間</th> <th>推計 15~74歳 人口</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>■</td> <td>18,551時間</td> <td>532人</td> <td>34.87時間</td> <td>366人</td> <td>→</td> <td>12,763時間</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>4,073時間</td> <td>127人</td> <td>32.07時間</td> <td>83人</td> <td>→</td> <td>2,662時間</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>8,157時間</td> <td>198人</td> <td>41.20時間</td> <td>125人</td> <td>→</td> <td>5,150時間</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>9,747時間</td> <td>113人</td> <td>86.25時間</td> <td>63人</td> <td>→</td> <td>5,434時間</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>5,548時間</td> <td>144人</td> <td>38.52時間</td> <td>102人</td> <td>→</td> <td>3,930時間</td> </tr> </tbody> </table>	地区	現在 年間 活動総量	2020年		2035年		目標年間 活動総量	15~74歳 人口	1人 あたり 活動時間	推計 15~74歳 人口		■	18,551時間	532人	34.87時間	366人	→	12,763時間	■	4,073時間	127人	32.07時間	83人	→	2,662時間	■	8,157時間	198人	41.20時間	125人	→	5,150時間	■	9,747時間	113人	86.25時間	63人	→	5,434時間	■	5,548時間	144人	38.52時間	102人	→	3,930時間	<p>○ワーク②の確認、話し合いの進め方の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 集落カルテから、共同活動の活動総量を約15年後に現在と同等の負担とするための活動総量目標を確認 ワーク①の分類をもとに、各カードを①このまま続ける、②省力化して続ける、③必要であるがやめる、④必要性は低くやめる に分類 	<p>【活動総量目標とは…】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在の一人当たりの活動時間に目標時(例えば約15年後)の総人口の推計値をかけた値 ①このまま続ける、②省力化して続けるに分類した共同活動カードの時間が活動総量目標の時間以内になるように省力化のアイデアを検討する
地区			現在 年間 活動総量	2020年		2035年		目標年間 活動総量																																								
	15~74歳 人口	1人 あたり 活動時間		推計 15~74歳 人口																																												
■	18,551時間	532人	34.87時間	366人	→	12,763時間																																										
■	4,073時間	127人	32.07時間	83人	→	2,662時間																																										
■	8,157時間	198人	41.20時間	125人	→	5,150時間																																										
■	9,747時間	113人	86.25時間	63人	→	5,434時間																																										
■	5,548時間	144人	38.52時間	102人	→	3,930時間																																										
<p>④ [事例紹介](10分)</p>	<p style="text-align: center;">内容</p>																																															
<p style="text-align: center;">◆共同活動を省力化する方法の種類</p> <ol style="list-style-type: none"> 回数・時間を減らす 例) 年4回を3回に 人数を減らす 例) 全員参加でなく●●名など 合同で実施する 例) ほかの集落と一緒に(広域で) 機械化・資材活用 例) 乗用草刈機、お掃除ロボット、防草シート など 手伝ってくれる人を増やす 例) 他出者に呼び掛ける、楽しいイベントにする 作業自体をしなくて済むようにする 例) オンライン化、作業委託 対象の範囲を狭くする 例) 管理する範囲を狭くする 複数の活動・行事をあわせて実施する 例) 草刈りとお祭りを合わせて開催する 	<p>○活動見直し、省力化事例の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> 省力化の方法の種類と、関心の高そうな共同活動の省力化を重点的に紹介 ※省力化係数(活動時間の軽減効果)も説明 																																															

⑤ [ワーク②](40分)	内容													
<p>共同活動の見直しの方針を考えよう</p> <p>★前半ワークの活動の分類や、省力化の事例を参考に、各共同活動を①～④に分類</p> <p>①+②の時間が活動総量目標の時間以内になるように</p> <table border="1" data-bbox="239 392 718 616"> <tr> <td rowspan="4">2035年の活動総量目標 ●●時間</td> <td>①このまま続ける</td> <td>カードを配置</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②省力化して続ける</td> <td>カードを配置 ×1/3 (継続化)</td> <td>カードを配置 ×3/4 (回数減)</td> </tr> <tr> <td>③必要であるが、やめる</td> <td>カードを配置</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④必要性は低く、やめる</td> <td>カードを配置</td> <td></td> </tr> </table>	2035年の活動総量目標 ●●時間	①このまま続ける	カードを配置		②省力化して続ける	カードを配置 ×1/3 (継続化)	カードを配置 ×3/4 (回数減)	③必要であるが、やめる	カードを配置		④必要性は低く、やめる	カードを配置		<p>○共同活動の見直しの方向性の分類と省力化アイデアの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動総量目標時間数を達成するために各カードに対して、付箋に活動量(時間)を減らすためのアイデアと想定される減量時間を書き込んでいく(紹介事例やアイデアも参考にしながら)。 見直し後の活動総量時間が目標以下になればゴール <p>○分類結果についての感想の話し合い</p>
2035年の活動総量目標 ●●時間		①このまま続ける	カードを配置											
		②省力化して続ける	カードを配置 ×1/3 (継続化)	カードを配置 ×3/4 (回数減)										
		③必要であるが、やめる	カードを配置											
	④必要性は低く、やめる	カードを配置												
⑤ [共有](10分)	内容													
	<ul style="list-style-type: none"> ワーク②の各区の分類結果を模造紙で張り出し、全体で共有 今後の進め方 振り返りシートへの記入 													

<ワークシート(共同活動カードを整理するシート)>



<ワークシート(共同活動を分類するシート)>



■第3回ワークショップ

支援者としての役割

- ・共同活動ごとの見直し(省力化)手法の傾向を紹介
- ・共同活動の見直しを具体化するワークで、どの活動について考えるかを提案、話し合い
- ・選ばれた活動について、見直しの手法や具体的な方法、今後の動き方を考えてもらい、ロードマップを作成する

テーマ	共同活動の見直しの具体化(見直し方法や今後の動き方の検討)
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのWSの内容の確認 ・見直しを図り、省力化をすすめる共同活動について、これまでの話し合いも踏まえて選定するいくつかの共同活動について具体的に目標を設定し、見直し方法を話し合う。 ・今後の区及び大宮南地域全体での話し合いのロードマップをイメージし、次回の集まりまでの区ごとの取り組み方を確認する。
対象	・会長・役員・各種役など5~10人程度を対象
準備物	次第・プログラム、集落カルテのまとめ、進行スライド(前回振り返り・感想抜粋、今回の目的・内容、今後に向けた提案、ワークの説明等)、第1回のワークで作成した各区の地図(原本またはデータ化したもの)、振り返りシート

① [導入](5分)	内容	
	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の振り返り ・今回の話し合いの視点 	
② [共有・話し合い](15分)	内容	メモ
	<p>○前回、分類した共同活動の見直しの優先度・方向性を確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日常生活への影響度」と「負担感」の2軸で分類した見直しの優先度 ・①このまま続ける、②省力化して続ける、③必要であるがやめる、④必要性は低くやめる4分類で仕訳けた見直しの方向性 	
	<p>○論点提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「そのまま続ける」と仕分けしたものは本当にそのまま続けるのか、「必要だがやめる」「必要ないのでやめる」と仕分けしたものは本当に必要ないかについては今後の話し合いの課題 	<p>【地区での継続検討の機会設置について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各共同活動の見直しの方向性をどうするか、地区での継続検討の機会を設けていただくことを提案

見直しロードマップづくりを行う活動と論点	
草刈り	
現状	<ul style="list-style-type: none"> 国営農地ため池、水路法面等：区民に参加を呼びかけ25人(3時間)×1回/年=105時間 水路、水路法面：水路関係者に参加を呼びかけ25人(2時間)×1回/年=50時間 府管理河川：川堤防の草刈り(草刈りつくり委員会)：区民に参加を呼びかけ堤防の草刈り、刈草焼却(春の堤防草刈り)25人(3時間)×1回/年=60時間(夏の堤防草刈り)25人(4時間)×1回/年=100時間(夏の堤防刈草焼却)25人(4時間)×1回/年=100時間 ため池、水路、農道等農用地域の草刈り(ため池水環境保全委員会)25人(4時間)×1回/年=100時間(水路、農道草刈り)25人(4時間)×1回/年=100時間
合計：615時間	
省力化アイデア(前回意見)	<ul style="list-style-type: none"> 全て作業委託：マイナス615時間
論点	<ul style="list-style-type: none"> 省力化方法は他にもないか、組み合わせられないか 草刈りエリアは現状のまま変えないか、エリアごとの作業の負担度合い、困難さはどうか 資金源はどうするか いつから変えていくか(どの場所からどのような順番で省力化を実施していくか)¹⁵

・「見直して続ける」と仕分けしたもののうち、今回、見直しの具体化を話し合う共同活動を確認・決定

【ワークで見直しの具体化を考える共同活動の選び方の視点】

- ・「地区内の維持管理(草刈り、溝さらいなど)」、「地区の活動(祭り、サロンなど)」、「寄り合い・情報伝達」の3ジャンルの活動から各1つずつ選択
- ・他の取組の省力化を考える上でも参考になりそうな代表的取組を選択

③ [ワーク](40分)

内容

メモ

参考 「省力化して続ける」その方法の分類や検討の傾向について

活動	見直し手法の種類								
	① 回数削減・参加者削減	② 人数削減	③ 回数削減・参加者削減	④ 活用・省力化・資材	⑤ 人を選ばず	⑥ 作業のオンライン化・委託	⑦ 作業の自動化・省力化	⑧ 併せて実施する	⑨ その他
例) 地区内の管理 草刈り				分り易いシート活用	地出者へ呼びかけ	●●作業委託、草食動物の活用	●●●●●	●●●●●	
例) 地区の整備 〇〇祭り	2年に1回にする	一部の内容を削って人数減	●●●●●					●●●●●	
例) 寄り合い・情報伝達 〇〇の会議	年6回に3回	参加結果を限定して人数減	●●●●●			LINEで情報共有		他の会議と併せて実施	

○共同活動の見直しに関するロードマップを作成

・以下の項目を話し合う
ア:15年後の省力化目標(削減時間)
イ:見直し手法(9つの分類から)
ウ:具体的な見直し方法・アイデア・省力化効果
エ:目標とスケジュール(いつまでに、どこで検討・合意形成し、誰が動き、どれだけ減らすか)
・人数が減るから減築される(自然の流れ・慣性の法則)と考えるのではなく、そうなることを想定して、具体的にいつ、内容もどこを減らすのかを話し合う。

【ロードマップ作成のポイント】

・9つの見直し方法分類と前回出されていたアイデアも参考資料として見せる・伝えることをしながら、話し合いをすすめる。

・あらかじめ具体化にあたって、どのような論点が考えられるか支援者側で検討しておく

例)省力化方法が第2回ワークで考えた方法以外にないか/費用が発生する場合の資金源/いつからどの程度減らしていくか/誰が実際に動くか/減らすことで問題は起きないか 等

④ [共有](20分)

内容

・各地区から見直す活動と見直しロードマップを3分程度で発表

・今回、具体的な見直しを考えた活動以外にも、「そのまま続けるのか」、「やめるのか」の課題も含めて、活動ごとに話し合う場をどのように設け、変えていくのかを各地区で継続検討することを提案

⇒次回、全体で集まり、進捗・状況報告、意見交換などをする機会を設けることを提案(半年後など)

⑤ [確認・話し合い等](20分)

内容

・各區で、次回、全体で集まるまでにどのような検討機会を設けるか検討

・振り返りシートへの記入

<共同活動の見直し手法の9分類>

参考

「省力化して続ける」 その方法の分類や検討の傾向について

活動	見直し手法の種類								
	①回数・時間減	②人数減	③合同実施	④機械化・資材活用	⑤人を増やす	⑥作業委託・オンライン化・作業の不要化	⑦範囲を狭める・やめる・除去	⑧複数の活動を併せて実施	⑨その他
例) 地区内の管理 草刈り				刈草機+防草シート活用	他出者へ呼びかけ	●●に作業委託、草食動物の活用	●●周辺はやめる	運動会と合同実施	
例) 地区の活動 〇〇祭り	2年に1回にする	一部の内容を削って人数減	●●区と合同実施					●●祭りと合体	
例) 寄り合い 情報伝達 〇〇の会議	年6回を3回に	参集範囲を限定して人数減	●●区と合同実施			LINEで情報共有		他の会議と併せて実施	

<共同活動の見直しロードマップ>

共同活動見直しロードマップ 10年後どうなる!?これからの「暮らしやすい」を考えよう 第3回

見直しを行う共同活動	2035年までの省力化目標	見直し手法	具体的な方法・アイデア (省力化効果)	ロードマップ (目標とスケジュール)					

【パターン1・2共通】

②ワークショップにより期待される成果とワークショップ後に地域で取り組むべきこと

■ワークショップにより期待される成果

①の3回のワークショップで、集落ごとに下記の成果が得られる。

- ・集落カルテによる地域情報の整理・共有
- ・集落の活動量の見える化
- ・活動の見直しの意義や必要性の理解、見直しの進め方に関するノウハウの獲得
- ・共同活動(パターン1・2共通)や役員活動(パターン1のみ)の見直しの優先度や方向性、内容、実現化に向けた段取りの検討・決定
- ・地区での活動の見直しに関する継続検討の意識醸成

■ワークショップ後地域で取り組むべきこと

ワークショップでの成果はあくまで参加者が獲得するものであり、この時点では集落全体の合意形成ではない。

参加者は、成果を持ち帰り、住民に広く共有し、役員会や総会などのしかるべき場所で正式な合意形成をしたうえで、実際に見直しを進めていくことが求められる。その際、地域によっては支援者の伴走が求められることが想定され、その体制確保が必要となる。

- ※ ワorkshop後における伴走支援の役割は、最も住民に近い基礎自治体(市町村)に求められる可能性が高いと考えられるため、ワークショップ着手前に、伴走支援者間においてあらかじめワークショップ後の支援体制についても議論しておくことが望ましい。

3. FAQ

ここでは、集落カルテ作成やワークショップ等の際に起こりうることとその対応について整理します。

■集落カルテ作成に関すること

Q1. 住民に集落カルテの作成やむらの減築の意義をなかなか理解していただけず、ヒアリングに進めない。どうしたらよいか。

A1. **まずはむらの減築のイメージ、具体例を紹介することや、住民が地域情報を共通して認識することの重要性を丁寧に、粘り強く伝え、理解促進を図る(できるだけ早いタイミングで行うのがよい)。**

また、初めから理解していただくことは難しく、取組を進めていく中で理解が深まっていくケースも少なくない。「説得ではなく、納得していただく」というスタンスで進めることが重要であり、他地域での事例や勉強会など、共通でインプットをする機会を作ることも有効である。

なお、それでも理解いただけず、集落カルテ作成のためのヒアリングに至らない場合(あるいはワークショップでの検討が進まない場合)は、その地域での実施を保留することも検討する。

⇒関連してQ3の対応も検討

Q2. 集落カルテ作成時(ヒアリング時)に、共同活動にかかる人数や時間がわからないと言われた。

A2. ①大体の情報を把握できていて、一部がわからない場合

⇒わかる人物を紹介していただき、次のワークショップ等に参加いただき、伺う

(基礎自治体職員が電話等で伺ってもよい)

②ほとんどの情報がわからない場合

⇒わかる人物を紹介していただき、別にヒアリングの機会を設ける

■ワークショップに関すること

Q3. 集落の足並みがそろわない場合は、どのようにスタートすれば良いか。

A3. **地域全体に声かけは行うが、無理に足並みをそろえる必要はない。具体的に進められる集落からスタートする。**ただし、取組に参画していない集落にも情報共有を行い、よければ見学に来ていただけるようお声がけを行う。

※地域全体で進めることにこだわりすぎず、「他の地域でむらの減築を進め、その姿を見てもらって理解いただく」という考え方。

Q4. 住民に活性化の議論ではなく、後ろ向きの取組(むらの減築)をどのように理解してもらえれば良いか。

A4. 「説得ではなく納得」してもらえるように、情報提供に努める。勉強会や事例紹介、視察など、同じことをみんなで聞く、体験するなど、インプットの機会を作ることが有効である。

勉強会などのインプットの機会は、「むらの減築に向けた動機づけ」であり、発想を変えるきっかけにもなりやすく有効である。なお、勉強会は目的を明確にすることが重要であり、必ずしも外

部講師を招へいする必要はない。

また、そもそもの取組趣旨として、「むらの減築」はこれまで地域で続けられてきた取組をやめていくことを是としているものではなく、「住民の皆さんがやりたいこと・楽しいこと」を続けていくために、それ以外の活動を見直す(=しんどい活動を省力化する)ことによって前向きな時間と余力を生み出すことを目指すものである。

残念ながら若者を中心に人の数が減っていく場合が多いという現実を受け止めて、今のうちから少し先の未来に向けて準備を始めることで、結果的に「やりたいことを続けられる」可能性が高まる。

以上のことを、できるだけ多くの方にご理解・ご納得いただけるよう、支援者は勉強会や事例紹介、グループワークを設計・運営するとよい。

Q5. リモート(オンライン)を活用する場合、どのようなことに気を付ければ良いか。

A5. リモート(オンライン)は、遠方のゲスト(事例)、都市部の支援者も参加しやすく、集落カルテヒアリングや勉強会などにおいて有効活用することで、よりよい効果につながりやすい。ただし、現場の通信環境を整えること、映像よりも音声(マイク&スピーカー)が重要であり、活用する場合は、事前の通信テストを行うことが望ましい。

Q6. 集落カルテに掲載する共同活動の内容が地区によってバラバラであるため、活動量(時間)などを他地区と単純に比較できないのではないか。

A6. カルテに掲載する活動の基準は、本マニュアルに掲載している通りだが、ヒアリングやアンケートで活動の情報を伺う際に、回答者が失念するなどし、本来掲載すべき活動が掲載されない可能性もある。ワークショップでカルテの確認を行う中で、正しい情報に更新することができればよいが、活動量を他地区と比較する回に更新が間に合わないこともありうる。

そのような際は、他地区と単純比較することはできないことを説明したうえで、他地区との比較は必ずしも重要ではなく、自身の区の活動状況を確認し、見直す検討材料として情報を使えばよいことも説明するとよい。

Q7. 草刈りなどの「しんどい」活動と、レクリエーションなどの「楽しい」活動をひとくくりにして、活動量の削減を目指す、「楽しい」活動の方が削減しやすいこともあり、後ろ向きの議論になってしまうのではないか。

A7. 活動量の削減を議論する際、本来の趣旨である「楽しみにしていることを継続し、より豊かな暮らしをまもるために、『しんどいこと』を今のうちから見直そう」という点をしっかりと説明するとよい。

また、このワークを通じて、活動を本当に減らしてよいのか、無くしてよいのかと参加者が感じ、そこから話し合いの機運を高めてもらうことも重要である。

Q8. 参加者には趣旨や内容が伝わるが、参加していない地区住民にどのように伝えればよいのか。

A8. 活動の見直しのロードマップを具体的に描くワークを最終回におこなうことで、実際にワークショップ終了後に住民が動く流れを作ることや、ワークショップ終了後に参加者や区長等代表者と

の意見交換会を行い、できる限り参加していない住民に取組趣旨や内容を伝えるようお願いするなどできるとよい。

また、資料やワークショップでの検討結果をデータで送付できる仕組みを作るなど、住民に伝えやすいように、状況に応じて適切に対応することが重要である。

■その他

○コロナ対策

- ・3密を避ける対策(広い部屋、換気、人数制限、消毒、検温、参加者の把握、短時間開催 等)

○区長などの役員交替

- ・引継ぎ時(就任時)に、当取組の紹介を丁寧に行う
- ・新区長候補の方には、当取組の勉強会やワークショップにできる限り参加いただいでおく。

4. 使える資料集

(1) 地域情報整理のためのデータ集

○ 国勢調査(小地域集計_京都府)

・平成17年(2005年) 表番号3, 6

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200521&tstat=000000030001&cycle=0&tclass1=000001048665&tclass2=000001064748&tclass3val=0>

・平成22年(2010年) 表番号3, 6

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200521&tstat=000001039448&cycle=0&tclass1=000001047504&tclass2=000001047969&tclass3val=0>

・平成27年(2015年) 表番号3, 6

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200521&tstat=000001080615&cycle=0&tclass1=000001094495&tclass2=000001094525&tclass3val=0>

・令和2年(2020年) 表番号3, 6-1

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200521&tstat=000001136464&cycle=0&tclass1=000001136472&tclass2=000001159899&tclass3val=0>

○ 国土交通省・国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV2(平成27年度国調対応版)」

<https://www.geospatial.jp/ckan/dataset/cohort-v2>

(2) 共同活動の省力化事例集

共同活動を省力化する事例を、事例集として別添資料に整理しました。

(3)勉強会のゲスト案

・集落のあり方を、集落カルテ等を使って話し合っていく取り組みを学ぶために、以下のゲストが考えられます。

候補	講師(取組の支援者)	ゲスト(取組実施地域の役員等当事者)
案1	齋藤 主税さん NPO法人都岐沙羅パートナーズセンター 理事・事務局長ほか *住民自治組織の中間支援組織	齋藤さんが関わる、新潟県内等の集落カルテ・全住民アンケートを活用した、取組の棚卸し、地域計画づくり、事業見直し事例
案2	大杉 覚さん 東京都立大学法学部 教授ほか *行政学・地方自治・地域コミュニティが専門	大杉先生が詳しく調査されている「福井県若狭町大鳥羽区」における、集落の縮減を受け止めた取組、住民自治等
案3	作野 広和さん 島根大学教育学部 教授ほか *地域づくり, 中山間地域, 過疎問題, 集落研究が専門	作野先生が深く関わっておられる島根県、鳥取県、兵庫県等の地区の事例や「むらのこし」「集落のターミナルケア」について
案4	NPO法人みんなの集落研究所	支援に入っている、集落カルテと住民アンケートを活用した地域計画づくり、事業見直し事例(岡山県高梁市宇治地区 等)
案5	島根県中山間地域研究センター	人口が減ると、どんな取り組みがなくなっているのか、ひとつの区でできなくても、共同で続けている取組事例
案6	福井県若狭町大鳥羽区	振興計画を5年ごとに区でつくり、実行、「自主学級」制度(近年廃止)等について

(4)ワークショップの準備物

・各回の共通の準備物は以下の通りです。

グループ備品	模造紙
	付箋（正方形・2色）
	細水性ペン（付箋記入用）
	太水性ペン（プロッキー・淡色除く）
	テーマ名の三角柱（硬めA4白紙）
会場備品	スクリーン
	プロジェクター
	PC
	マイク
	黒板
	机
	椅子
受付	手指消毒液、体温計
	マスク
	机
	ボールペン／マーカー
	受付表示
	受付簿